

『漢書』 古今人表と春秋史

吉 本 道 雅

一

『漢書』 古今人表は上古より秦に至る人物の一覧表である。1 行は 9 列に分かれ、第 1 行は第 1 ～第 9 列に「上上」「上中」「上下」「中上」「中中」「中下」「下上」「下中」「下下」の見出しを記し、第 2 行は第 1 ～第 3 列に「聖人」「仁人」「智人」、第 9 列に「愚人」と記す。

上上 14 人・上中 174 人・上下 203 人・中上 315 人・中中 329 人・中下 300 人・下上 241 人・下中 232 人・下下 132 人の都合 1940 人が列せられている*1。

梁玉繩『人表考』（乾隆五十一年 1786）は、古今人表に關する最初の包括的な考證であり、王利器・王貞珉 1988 は、梁玉繩にはじまる諸家の考證を集成している。これらの著作は、基本的に古今人表に列せられた個々の人物の出處を考證するものだが、實のところ、古今人表それ自體を解明したものとはいえない。

たとえば、晉獻公につき、『人表考』 卷八には以下のようにある。

晉獻公（武公子）

晉獻公始見詩葛生・采芑・渭陽序、檀弓上、左莊廿三、公・穀僖二、晉語一。武公子始見侯表・晉世家。名倮諸。（左僖九、春秋公・穀。史作詭。）亦曰晉獻、（楚辭東方朔七諫・抱朴子君道）亦稱爲王。（莊子齊物論。）立二十六年。（史記。）葬絳縣東槐泉村。（一統志。寰宇記百廿八云冢在濠州定遠縣、東去驪姬冢十步。）

晉獻公については遺憾のない記述だが、古今人表において晉獻公がなぜその位置（百衲本『漢書』 卷二十、第 21 葉上第 15 行第 8 列。以下 21 上 15-8 のように表記する）にあるのかについては何ら説明していない。

人物の位置、すなわち行・列のうち、上上～下下の列は、その人物を評定する等級

*1 吳樹平・王佚之・汪玉可點校 1982 が古今人表に附した整理番號に據る。

であり、古今人表ないし『漢書』、さらには1世紀の「儒教的」價值觀を考える素材となる。古今人表を對象とする專論は決して多くないが、それらはほとんど例外なく、この列すなわち等級を問題としている*2。

これに對し、行を問題とした研究は寡聞にして知らない。ごく初歩的な印象として、古今人表において各列の人物は年代順に排列されており、かつ同じ行には同時代の人物が並んでいる。特定の人物の位置する行、すなわちその人物の年代は所與のものであるはずであり、列、すなわち等級と異なり、古今人表の主體的な營爲が介在する餘地はない、という漠然とした認識が潜在的に共有されていたからであろう。わずかに、特定の人物の位置する行、すなわち年代がよほど不都合である場合、それを指摘するということがあっただけである。

しかしながら翻って考えるに、特定の人物の年代は何を基準に決定されるのであろうか。

春秋時代（百衲本 17 下 04-9 に平王が、34 上 05-7 に智伯が見えるので、17 上 01 ～ 34 上 05 を便宜的に「春秋時代」とする*3）について、王侯 229 人の在位年代を確認すると、159 人（69%）が元年の順に並んでいることが判明する。元年の順から逸脱するものについて、36 人（16%）については、卒年ないし特定の事件の年次に置かれている。残る 34 人（15%）は不明である。

	中上	中中	中下	下上	下中	下下	
元年	5	8	43	46	31	26	159
其他	0	3	4	10	10	9	36
不明	0	3	13	10	6	2	34
	5	14	60	66	47	37	229

*2 古今人表を主題とした先行研究は、篇末「引用文獻」を参照。

*3 狭義の春秋時代は、魯隱公元年（722BC）に始まるが、本稿では『左傳』が扱う時代として前後に延長する。吉本 2007 に示したように、平王元年（770BC）～魯惠公四十六年（723BC）の間の諸侯は、追記のかたちで『左傳』に散見する。また、『左傳』は「知伯不悛、趙襄子由是弑知伯、遂喪之。知伯貪而復、故韓魏反而喪之」と智伯滅亡を最後に置く。

21 上 15-8 晉獻公（676-651BC）についていえば、その前後には、21 上 12-8 衛懿公（668-660BC）・21 下 15-8 曹共公（652-618BC）が置かれており、衛懿公元年は晉獻公元年より降る。詳細はあらためて後述するが、晉獻公は、『左傳』閔二（660BC）「晉侯使大子申生伐東山臯落氏」の年次に置かれているのである。

この事實は、この事件に對する古今人表の關心を示す。果たして、21 上 13～21 下 10 には、この事件のその他の登場人物、さらに晉獻公に關連する人物が置かれている。

先走っていえば、王侯の在位年代の判明する共和元年（841BC）前後以降について、古今人表は、

（1）王侯を元年順に排列し、ついで九等に配分することで、表の行列の基本的な枠組みを決定する（以下この段階を「王侯表」と稱する）。

（2）特定の王侯については、卒年や關連する事件の年次に相當する行に移動させる。

（3）個々の王侯の周邊に關係する人物を挿入する。

（4）特定の王侯に關係しない人物を年代を考慮して挿入する。

といった作業過程で作成されたものである。（2）～（4）は反復して行われ、それが行列の混亂の大きな原因になったものと思われる。

こうした所見が、第 8 列に屬する衛懿公・晉獻公・曹共公の在位年代を手がかりに、その排列のあり方を確認することで獲得されたことをあらためて強調したい。『人表考』に代表される人物の個別的考證ではなく、特定の人物とその前後左右との關係を考慮せねば、古今人表を「讀み解く」ことはできないのである。

このような視點のもと、本稿は古今人表の春秋部分について、それぞれの人物がいかなる理由で現在位置に置かれているのかということを考證する^{*4}。上古～秦を扱った古今人表のうち、とくに春秋時代を取り上げるのは、ここに登場する人物のかなりの部分が『左傳』に登場するからである。王侯以外の人物の位置は、特定の事件に關連して決定されるが、『左傳』に見える事件であれば、その年次がわかり、その人物の位

*4 吳樹平・王佚之・汪玉可點校 1982 の整理番號に據れば、上上 1 人・上中 17 人・上下 91 人・中上 167 人・中中 184 人・中下 175 人・下上 149 人・下中 157 人・下下 80 人の都合 1021 人、全体の 52.6% を占める。

置する行、すなわち年代の妥當性を檢證しうる。また逆に、その人物が登場する『左傳』の事件の年次から、その人物の位置する行の年代を確定できる。

二

古今人表の分析に入る前にあらかじめ確認しておきたいのは、現行本の古今人表の行・列が最初に編纂された、あるいは最初に意圖された状態のままではないということである。『漢書補注』古今人表において王先謙は次のように述べる。

案、此表屢經傳寫、紊脫尤多。原序有崇侯、張云有嫪毐、宋重修廣韻公字注有齊大夫公幹、士字注有士思癸、通志氏族略四有司褐拘、而今俱無之、斯疏脫之驗也。學林引表桀在九等、張謂田單・魯仲連・藺相如五等、寺人孟子三等、史通謂陽處父四等、士會・高漸離五等、鄧三甥・荊軻六等、鄧祁侯・秦舞陽七等、俱與今本異、斯紊次之驗也。他若標署譌複、時代乖違、均由於此、豈盡班氏之咎乎。

宋代以前の諸家の言説から、現行本に誤脱および列の移動が生じていることを指摘し、その原因として、傳寫の誤を想定している。

列の移動が問題となるのは、上述の如く、古今人表について、人物に與えた等級に關心が集中していたためだが、ここで指摘すべきは、行の移動である。

次に掲げるのは、春秋部分の冒頭、魯隱公より前に当たる第17葉および第18葉の一部である。以下、本稿で古今人表を掲げる場合は、原注・顏師古注は省略、平王宜臼→平王の如く、王侯については諱は省略し、『史記』十二諸侯年表に見える在位年代を附記する*5。また、百衲本では、人名に二行を費やすことが多いが、本稿では最初の行にまとめて表記する。人名の冒頭部分をもたない行は省略する。

*5 『史記』十二諸侯年表の在位年代は、『春秋經』『左傳』と矛盾するなど必ずしも信賴できないが、周・魯・齊・晉・秦・楚・宋・衛・陳・蔡・曹・鄭・燕・吳の君主の在位年代を漏れなく載せているという点において、古今人表がまず参照したものであると思われる。なお、十二諸侯年表の最終年次たる477BC以後に即位した王侯について、六國年表に見えるものはその在位年代を用い、それ以外のものは十二諸侯年表・六國年表・世家の情報に基づき在位年代を示したが、これらについては個別的な説明は行わない。

『漢書』古今人表と春秋史

	上上	上中	上下	中上	中中	中下	下上	下中	下下
17 上 01						楚若敖 790-764			
03									内史嬖子
06									趣馬蹇
08					秦襄公 777-766				
09							魯惠公 768-723		
10									師氏萬
11					文子				
12						晉文侯 780-746			
13							秦文公 765-716		
14									申侯
15					辛有	趙叔帶			
17 下 01							楚寧敖 763-758		
02						宋武公 765-748			
03							*鄭武公 770-744		
04									平王 770-720
05						衛嚴公 757-735			
06							*燕哀侯 766-765		
07								晉昭侯 745-739	曹繆公 759-757
08						陳文公 754-745	*燕鄭侯 764-729		
09			宋正考父					潘父	
10						宋宣公 747-729		*曹桓公 756-702	曲沃桓叔 745-731
11							蔡共侯 761-760		
13						*楚蚡冒 757-741		*蔡戴侯 759-750	
14							齊釐公 730-698		晉孝侯 739-724
18 上 01					宋大金		燕繆侯 728-711	*蔡宣侯 749-715	
02						宋繆公 728-720			曲沃嚴伯 730-716
04							*陳桓公 744-707		

上述の如く、古今人表の春秋部分では、各列の王侯は、元年もしくは関連する事件の年次の順番に排列されるものが85%を占めるが、その一方で15%はその序列から逸脱している。ここで「*」を附したものは、その逸脱に属する。

ここでまず問題としたいのは、各行がほぼ同時代ではあるが、厳密には同年代でないということである。たとえば、17 上 12-6 晉文侯（780-746BC）についていえば、17 上 08-5 秦襄公（777-766BC）・17 上 09-7 魯惠公（768-723BC）は、元年が晉文侯より降

るにも関わらず、晉文侯より前の行に置かれている。各列において王侯を元年もしくは関連する事件の年次の順に排列するありかたと明らかに矛盾するものといわざるを得ない。列の移動は諸家のすでに指摘するところだが、行についても一定程度の移動が生じていることが容易に推測される。

上掲の「*」を附した王侯についても、古今人表編纂の際の錯誤に加えて、複数回にわたる傳寫の際に発生した行・列の移動を想定するならば、容易に説明可能となる。現行本の行・列は分析の出発点として最大限尊重されねばならないが、その一方で、行・列が移動している可能性にもつねに留意せねばならない。

三

以下では、古今人表の個々の人物の位置、とくに行、すなわち年代の考證に重點を置きつつ、古今人表が注目した事件の考證につとめる*6。

001 平王東遷 17 上 08-5 秦襄公・17 上 12-06 晉文侯・17 下 03-7 鄭武公・17 上 14-9 申侯は、17 下 04-9 平王の東遷に関連する。

晉・鄭が東遷を援助したことは、『左傳』隱六に見え、晉文侯・鄭武公が平王を輔けたとすることは、『國語』晉語四に見えるが、『史記』は晉・鄭の平王援助を全くいわず、もっぱら秦襄公に頻繁に言及する*7。また、申侯も『史記』周本紀に初見する。秦襄公を晉文侯・鄭武公より上等に置くことも相まって、古今人表の東遷に対する認識は基本的に『史記』に據るものといえよう。

鄭武公（770-744BC）の元年は 17 下 01-7 楚寧敖（763-758BC）の元年より遡る。列に問題があるようである。晉文侯と並稱されることを考慮すれば、第 6 列の晉文侯（780-746BC）と 17 上 02-6 宋武公（765-748BC）の間に置かれることが適當であろう。

*6 王侯について関連する人物をとまわず、その元年に従って置かれていると判断されるものについては、見出しを立てて説明することはしない。なお、17 上 03-9 内史叔子・17 上 06-9 趣馬蹶・17 上 10-9 師氏萬は、『詩』小雅/十月之交（毛序「大夫刺幽王也」）に見える。平王以前であるので本稿では扱わない。

*7 吉本 2017。

上述の如く、王侯については現在位置のままではその排列の理由が不明であるものが散見する。もとより王侯表の段階における在位年代に関する認識の誤り、あるいは單純な排列の誤りの可能性も絶無ではないが、本稿ではそれ以外の説明を追求するものとする。

17 上 15-6 趙叔帶が晉文侯の後に置かれているのは、『史記』趙世家「奄父生叔帶。叔帶之時、周幽王無道、去周如晉、事晉文侯、始建趙氏于晉國」に據る。

17 上 11-5 文子は、『漢書』藝文志 / 諸子 / 道家に「文子九篇。老子弟子、與孔子並時、而稱周平王問、似依託者也」と見える。

17 上 15-5 辛有は『左傳』僖二十二「初、平王之東遷也、辛有適伊川」に見える。

002 楚寧敖・燕哀侯・燕鄭侯 17 下 06-7 燕哀侯 (766-765BC)・17 下 08-7 燕鄭侯 (764-729BC) は、哀侯卒年たる 765BC に繋がるようである。楚寧敖 (763-758BC) の元年より遡る。燕哀侯・鄭侯もしくは楚寧敖の列が移動したものと思われるが、どちらがどのように移動したかは確言できない。

003 晉の内亂 17 下 07-8 晉昭侯・17 下 09-8 潘父・17 下 10-9 曲沃桓叔・17 下 14-9 晉孝侯・18 上 02-9 曲沃嚴伯*8・18 上 14-8 晉鄂侯は、『左傳』桓二

惠之二十四年 (745BC)、晉始亂、故封桓叔于曲沃。…惠之三十年 (739BC)、晉潘父弑昭侯而立桓叔、不克。晉人立孝侯。惠之四十五年 (724BC)、曲沃莊伯伐翼、弑孝侯。翼人立其弟鄂侯。

に見え、さらに『史記』晉世家

昭侯元年、封文侯弟成師于曲沃。…成師封曲沃、號爲桓叔。靖侯庶孫欒賓相桓叔。桓叔是時年五十八矣、…七年、晉大臣潘父弑其君昭侯而迎曲沃桓叔。桓叔欲入晉、晉人發兵攻桓叔。桓叔敗、還歸曲沃。晉人共立昭侯子平爲君、是爲孝侯。誅潘父。孝侯八年、曲沃桓叔卒、子鰈代桓叔、是爲曲沃莊伯。孝侯十五年、曲沃莊伯弑其君晉孝侯于翼。晉人攻曲沃莊伯、莊伯復入曲沃。晉人復立孝侯子郤爲君、是爲鄂侯。は『左傳』を踏まえつつ、下線部に示したように、曲沃桓叔の卒年、莊伯の諱、晉孝侯・

*8 曲沃嚴伯は『左傳』桓二などでは「莊伯」に作る。後漢明帝の諱を避けたものであることはいうまでもない。以下「莊」の避諱については注記しない。また『左傳』などとの表記の相違、さらには甚だしい誤記もあるが、個別的には注記しない。

鄂侯の先代との続柄・諱といった独自の記述を附加している。ここに窺われるように、『史記』は独自の系譜資料を用いている。一方で、後掲の 20 上 15-8 晉愍侯が見えないように、『左傳』および『春秋經』は王侯の卒を必ずしも載録しておらず、従ってこれらだけで系譜・在位年代を完全に復元することはできない。古今人表は基本的に『史記』の系譜および在位年代に據っている。

【003 晉の内亂】に屬する晉昭侯・潘父・曲沃桓叔・晉孝侯・曲沃嚴伯・晉鄂侯は全て『左傳』『史記』の雙方に見える。古今人表が第一次的にどちらに據ったのかは確言できない。その一方で、本稿では逐一指摘することはできないものの、古今人表は『左傳』のみに見えて『史記』に見えない人物を大量に載録しており、【003 晉の内亂】についても、『左傳』を見なかったはずはない。こうした次第で、以下では、基本的に『史記』については、『左傳』に見えない情報が古今人表に反映されている場合に限って言及することにする。

【003 晉の内亂】は、晉昭侯（745-739BC）の元年たる 745BC に繋がる。鄂侯だけが大きく隔たっている理由は【008 魯隱公】に後述する。

004 宋正考父・宋大金 17 下 09-3 宋正考父は、『左傳』昭七「及正考父佐戴・武・宣」に見える。そのため 17 下 10-6 宋宣公の近くに置かれているのであろう。

18 下 08-3 宋孔父（原注「大金子」）・18 上 01-5 宋大金（原注「考父子」）は、『毛詩正義』商頌/那

世本云、宋湣公生弗甫何、弗甫何生宋父、宋父生正考甫、正考甫生孔父嘉、爲宋司馬華督殺之、而絕其世。其子木金父降爲士。木金父生祁父、祁父生防叔、爲華氏所偪、奔魯、爲防大夫、故曰防叔。防叔生伯夏、伯夏生叔梁紇、叔梁紇生仲尼、則正考甫是孔子七世之祖、故云孔子之先也。

の孔父嘉・木金父に当たる。原注に明かなように、古今人表は父子順が轉倒している。孔父が【012 宋殤公】に後述の如く宋殤公とともに殺害されているので、大金は宋宣公・殤公の間の 18 上 02-6 宋繆公の近くに置かれているのである。

005 曹桓公・蔡戴侯・蔡宣侯 17 下 10-8 曹桓公（756-702BC）・17 下 13-8 蔡戴侯（759-750BC）・18 上 01-8 蔡宣侯（749-715BC）の元年は 17 下 07-8 晉昭侯（745-739BC）の元年より遡り、蔡戴侯元年は曹桓公元年より遡る。列の混亂によるものであろう。

晉昭侯のように、第8列に属するものは、弑殺されたり、内亂の契機となったりと、社稷の危機に関わるものが目立つ。對するに、曹桓公・蔡戴侯・蔡宣侯は、『史記』には何らの事跡も見えず、第8列に属する根拠をもたない。王侯表の段階では、たとえば、17下11-7 蔡共侯(761-760BC)・17下14-7 齊釐公(730-698BC)の間に、蔡戴侯・曹桓公・蔡宣侯の順で置かれていたものが、誤寫などによって現在位置に移動したものであろう。

006 楚蚡冒 17下13-6 楚蚡冒(757-741BC)の元年は、17下08-6 陳文公(754-745BC)・17下10-6 宋宣公(747-729BC)の元年より遡る。『史記』楚世家「蚡冒十七年、卒。蚡冒弟熊通弑蚡冒子而代立、是爲楚武王」に、蚡冒の子が弑殺されたことが見え、王侯表の段階では第7列の17下11-7 蔡共侯(761-760BC)の次に置かれていた可能性がある。

007 陳桓公 18上04-7 陳桓公(744-707BC)の元年は、18上01-7 燕繆侯(728-711BC)の元年より遡る。【020 陳厲公】で後述するように、陳桓公については、その卒後の公位繼承紛争が見える。【005 曹桓公・蔡戴侯・蔡宣侯】とは逆に、王侯表の段階では、第8列の17下07-8 晉昭侯(745-739BC)の次に置かれていた可能性がある。

008 魯隱公 18上08-5 臧釐伯・18上08-6 邾儀父・18上07-7 展亡駭・18上08-9 公子翬・18下02-8 宰咺は、18上06-9 魯隱公に關連する*9。魯隱公元年(722BC)に繋がる。

宰咺だけが隔たっているのは、編纂の際の不手際に由來するものと思われる。すなわち、上述の如く、古今人表は、まずは王侯をその元年ないし關連する事件の年次の順に排列して行・列を決定し、ついで個々の王侯に關係する人物をその周圍に配置したものである。宰咺は當初、臧釐伯らと同じ行の18上08-8あたりに置かれていたはずである。現在位置より9行前である。假に同じ距離を想定するならば、その時点で18上14-8 晉鄂侯は18上05-8、18上09-8 鄭嚴公は17下15-8あたりにあったことになる。この段階で、晉鄂侯は18上02-9 曲沃嚴伯の近くに位置していた。ところがここで、鄭嚴公を『左傳』隱元の鄭の内亂に關連づけるため、現在位置に移動させる。この際、晉鄂侯・宰咺をもあわせて移動させてしまったため、晉鄂侯と【003 晉の内亂】、

*9 『左傳』において、展亡駭は隱二「司空無駭入極」、臧釐伯は隱五「臧僖伯諫曰、…」、邾儀父は隱元「公及邾儀父盟于蔑」、公子翬は隱四「羽父請以師會之」、宰咺は隱元「天王使宰咺來歸惠公仲子之賵」に見える。以下では「關連する」根拠は必ずしも挙げない。王利器・王貞珉1988を参照されたい。また、同書を参照した場合も必ずしも注記しない。

宰咺と【008 魯隱公】が隔たってしまったものと思われる。

009 蔡桓侯 18 上 05-6 蔡桓侯（714-695BC）の元年は魯隱公（722-712BC）の元年より降る。編纂の途中ですでに行と年次が對應しなくなっており、魯隱公より前の行に移動していた蔡桓侯の後に【008 魯隱公】（722BC）に屬する 18 上 08-6 邾儀父が置かれたものであろう。

010 鄭嚴公 18 上 11-6 潁考叔・18 上 15-6 鄭公子呂・18 上 13-8 叔段は、18 上 09-8 鄭嚴公とともに、『左傳』隱元（722BC）の鄭の大叔段の亂に關連する。【010 鄭嚴公】は 18 上 09～18 上 15 の 7 行に及ぶが、年代的には全て 722BC に屬する。すなわち、【010 鄭嚴公】の内部では行の進行は時間の進行を意味しない。行のこのような多義性が、行・列の混亂の一つの原因である。

011 衛州吁の亂 18 上 12-5 石碣・18 上 11-9 衛桓公・18 上 14-9 公子州吁は、『左傳』隱四（719BC）に見える衛の州吁の亂に關連する。

012 宋殤公 18 下 08-3 宋孔父・18 下 08-8 華督は、18 下 05-8 宋殤公の弑殺（『左傳』桓二 710BC）に關わる。18 下 07-4 臧哀伯は、弑殺に續く

夏四月、取郕大鼎于宋。戊申、納于大廟、非禮也。臧哀伯諫曰、…
に見える。また 18 下 15-6 宋嚴公も【012 宋殤公】に屬する。行が二次的に移動して隔たったものである。【016 蔡哀侯】（714BC）の前にあるので、殤公元年（719BC）に繋がる。

013 宋司徒皇父 18 上 13-7 宋司徒皇父・18 下 01-7 司空牛父・18 下 03-7 公子穀生・18 下 05-7 酈班は、『左傳』文十一

初、宋武公之世、鄭瞞伐宋。司徒皇父帥師禦之、酈班御皇父充石、公子穀甥爲右、司寇牛父駟乘、以敗狄于長丘、獲長狄緣斯。

に見える。『左傳』は「宋武公之世」（765-748BC）とするが、『史記』宋世家

昭公四年（616BC）、宋敗長翟緣斯於長丘。

は宋昭公に繋げる。ここでは【008 魯隱公】（722BC）と 18 下 07-7 桓王（719-697BC）の間に置かれ、18 下 05-8 宋殤公（719-710BC）の時代に當たる。あるいは、古今人表の用いた『左傳』では、「宋殤公之世」に作っていたのかもしれない。

014 秦憲公^{*10} 【015 曹嚴公】に後述の如く、18 下 02-6 曹嚴公の元年が714BCと誤認されていたとすると、18 下 08-6 秦憲公（715-704BC）の元年はそれより遡る。『史記』秦本紀

寧公卒、大庶長弗忌・威壘・三父廢太子而立出子爲君。出子六年、三父等復共令人賊殺出子。出子生五歲立、立六年卒。三父等乃復立故太子武公。武公元年、…三年、誅三父等而夷三族、以其殺出子也。

に憲公卒後の公位繼承紛争が見え、秦憲公は王名表の段階では、第7列、18 下 11-7 衛宣公（718-700BC）の次にあった可能性がある。

015 曹嚴公 18 下 02-6 曹嚴公（701-671BC）の位置は、その在位年代と矛盾する。701BCは魯桓公九年に当たるが、あるいは王侯表の段階でこれを魯隱公九年（714BC）と誤認したものであろう。なお18 下 10-5 魯施父は、『左傳』桓九

冬、曹太子來朝。賓之以上卿、禮也。享曹太子、初獻、樂奏而歎。施父曰、曹太子其有憂乎、非歎所也。

のみに見える。本来、曹嚴公と一群をなすものであり、18 下 02-5 あたりにあったはずだが、楚武王の移動（【021 楚武王】で後述）の際に、あわせて移されたものであろう。

016 蔡哀侯 18 下 11-8 蔡哀侯（694-675BC）の在位年代はこの位置と矛盾する。王侯表の段階で哀侯の父、18 上 05-6 蔡桓侯（714-695BC）の在位年代を誤って用いたものと思われる。

017 魯桓公 18 下 09-9 夫人文姜・18 下 11-9 彭生は18 下 06-9 魯桓公の弑殺（『左傳』桓十八 694BC）に関わる。18 下 12-9 陳厲公（706-700BC）の前にあるので、魯桓公元年（711BC）に繋がるものと思われる。

*10 『史記』秦本紀・十二諸侯年表は憲公を「寧公」に作り、「憲公」は秦始皇本紀に附載された王名表にのみ見える。王名表の後に「孝明皇帝十七年十月十五日乙丑、日、…」で始まる一節があり、『史記索隱』は「此已下是漢孝明帝訪班固評賈馬贊中論秦二世亡天下之得失、後人因取其說附之此末。」とする。王名表について、『史記索隱』は「此已下重序列秦之先君立年及葬處、皆當據秦紀爲說、與正史小有不同、今取異說重列於後」と、司馬遷が附したものとしますが、魏了翁『古今攷』卷十八/附論古秦紀書初者六始者一與史記不同は、「今史記廣德軍版第一始皇本紀後有低兩字一段、班固漢明帝時所得秦紀也」と述べる。「憲公」が『史記』秦本紀・十二諸侯年表に見えず、古今人表に見えるという事實は、王名表が司馬遷ではなく班固が獲得したものとする魏了翁の説を支持するものと考ええる。

018 芮伯 18 下 02-9 芮伯は、『左傳』桓三（709BC）「芮伯萬之母芮姜惡芮伯之多寵人也、故逐之、出居于魏」に初見する。列の移動がなければ、誤って【017 魯桓公】（711BC）の前に挿入されていることになる。

019 晉哀侯・晉小子侯 18 下 13-8 晉哀侯・19 上 02-8 晉小子侯は、『史記』晉世家（哀侯）九年（709BC）、伐晉于汾旁、虜哀侯。晉人乃立哀侯子小子爲君、是爲小子侯。

に見える。下線部は、『左傳』桓三（709BC）

三年春、曲沃武公伐翼、次于陘庭。韓萬御戎、梁弘爲右。逐翼侯于汾隰、驂絙而止、夜獲之、及欒共叔。

に據るが、小子侯即位のことは見えない。『左傳』では小子侯は桓七（705BC）「冬、曲沃伯誘晉小子侯殺之」にしか見えない。

020 陳厲公 18 下 12-9 陳厲公について、『左傳』および『春秋經』には、

春正月甲戌己丑、陳侯鮑卒。再赴也。於是陳亂、文公子佗殺太子免而代之。公疾病而亂作、國人分散、故再赴。（『左傳』桓五 707BC）

蔡人殺陳佗。（『春秋經』桓六 706BC）

陳厲公、蔡出也。故蔡人殺五父而立之、生敬仲。（『左傳』莊二十二 672BC）

桓公之亂、蔡人欲立其出。我先君莊公奉五父而立之、蔡人殺之。我又與蔡人奉戴厲公。（『左傳』襄二十五 548BC）

八月壬辰、陳侯躍卒。（『春秋經』桓十二 700BC）

とある。陳桓公卒後、公子佗（五父）が大子免を殺して即位したが、翌年、蔡が公子佗を殺して厲公を立てたというものである。ところが、『史記』陳世家

三十八年（707BC）正月甲戌己丑、桓公鮑卒。桓公弟佗、其母蔡女、故蔡人爲佗殺五父及桓公太子免而立佗、是爲厲公。桓公病而亂作、國人分散、故再赴。厲公取蔡女、蔡女與蔡人亂、厲公數如蔡淫。七年（700BC）、厲公所殺桓公太子免之三弟、長曰躍、中曰林、少曰杵臼、共令蔡人誘厲公以好女、與蔡人共殺厲公而立躍、是爲利公。利公者、桓公子也。利公立五月卒、立中弟林、是爲莊公。莊公七年卒、少弟杵臼立、是爲宣公。

は、公子佗を厲公とし、蔡の支持を得た利公躍が厲公を殺したとする。厲公の「淫」は、

上掲『春秋經』桓六「蔡人殺陳佗」に対する『公羊』『穀梁』

陳佗者何。陳君也。陳君、則曷爲謂之陳佗。絕也。曷爲絕之。賤也。其賤奈何。

外淫也。惡乎淫。淫于蔡、蔡人殺之。（『公羊』）

陳佗者、陳君也。其曰陳佗、何也。匹夫行、故匹夫稱之也。其匹夫行奈何。陳

侯熹獵、淫獵于蔡、與蔡人爭禽。蔡人不知其是陳君也、而殺之。何以知其是陳君也。

兩下相殺、不道。其不地、於蔡也。（『穀梁』）

を参用したものである。「利公」が「厲公」を音の近い異字で寫したものであることは明らかであり*11、『史記』の記述は誤りが甚だしいが、古今人表が陳厲公を第9列に置くのは、陳厲公を篡奪者で自らも弑殺された公子佗とする『史記』の理解に基づくものである。上掲『左傳』莊二十二に見えるように、【041 陳公子完】に屬する20下084 陳公子完は、厲公の子だが、古今人表が「佗子」と原注を施すこともそれを傍證する。

021 楚武王 19上05-4 隨季良・18下07-5 鄧曼・19上02-5 鬬伯比・19上04-5 熊率且比・19上05-6 觀丁父・19上07-6 薳章・19上05-7 楚瑕丘・19上07-7 隨少師は、18下04-5 楚武王に關連する。『左傳』において楚武王が初見する桓六（706BC）に繋かると見てよいが、その場合、【017 魯桓公】・【012 宋殤公】・【021 楚武王】が711BC・719BC・706BCに繋がることは、これらが18上06・18上05・18上04から始まることに矛盾する。行の混亂が生じている。さらに18下07-5 鄧曼・19上02-5 鬬伯比が10行も隔たっていることは、18下04-5 楚武王・18下07-5 鄧曼があるべき行よりかなり前に置かれていることを示している。

また、18下07-5 鄧曼・19上02-5 鬬伯比の間に、【015 曹嚴公】（714BC）に屬する18下10-5 魯施父があることは、【021 楚武王】が706BCに繋がることと矛盾するが、これは上述の如く、編纂の途中で楚武王をその元年たる740BCから706BCに移動した際に、魯施父をもあわせて移したためである。

022 魯嚴公 19上11-7 魯嚴公（693-662BC）の元年は、19下05-7 鄭昭公（696-695BC）の元年よりも降る。魯嚴公がこの位置に置かれているのは、19上11-4 魯申繻が同じ行に置かれることから、『左傳』桓六（706BC）

*11 郭錫良1986の推定上古音は、利は liēt、厲は liāt である。

九月丁卯、子同生。以大子生之禮舉之、接以大牢、卜士負之、士妻食之、公與文姜・宗婦命之。公問名於申繻。對曰、…

に據るものとなる。王名表の段階では 19 下 10-7 鄭子臺（694BC）の次にあった魯嚴公を現在位置に移動させたのである。19 上 11-8 夫人哀姜が【024 鄭厲公】（701BC）の後にあるのは、編纂の途中ですでに行と年次が對應せず、魯嚴公が鄭厲公より後の行にあったためであろう。

023 虞公 18 下 15-7 虞公・19 上 02-7 虞叔は、『左傳』桓十（702BC）

初、虞叔有玉、虞公求旃。弗獻。既而悔之。曰、周諺有之、匹夫無罪、懷璧其罪。吾焉用此、其以賈害也。乃獻之。又求其寶劍。叔曰、是無厭也。無厭、將及我。遂伐虞公、故虞公出奔共池。

に見える。列の移動がなかったとすれば、【021 楚武王】（706BC）に屬する 19 上 05-7 楚瑕丘・19 上 07-7 隨少師の前に誤って挿入されたことになる。

024 鄭厲公 19 上 08-5 鄭祭足・19 上 08-8 鄭厲公は、『左傳』桓十一（701BC）

夏、鄭莊公卒。初、祭封人仲足有寵於莊公、莊公使爲卿。爲公娶鄧曼、生昭公。故祭仲立之。宋雍氏女於鄭莊公、曰雍姑、生厲公。雍氏宗有寵於宋莊公、故誘祭仲而執之、曰、不立突、將死。亦執厲公而求賂焉。祭仲與宋人盟、以厲公歸而立之。に見える。

025 嚴王 19 上 11-6 嚴王（696-682BC）の元年は、19 下 01-6 衛惠公（699-697・686-699BC）・19 下 09-6 秦武公（697-678BC）・19 下 12-6 燕桓侯（697-691BC）の元年より降る。古今人表の列が決定される根拠は必ずしも明瞭ではなく、加えて列が移動している可能性もつねにあるわけだが、その一方で、王侯に付與される列は、弑殺などが傳えられない限りは前後で一定である傾向がある。嚴王の前後の周王が 18 下 07-7 桓王・20 下 02-7 釐王ともに第 7 列に置かれていることを考慮すれば、嚴王も王侯表の段階では 19 下 05-7 鄭昭公（696-695BC）の前にあった可能性がある。

026 鄭昭公 19 下 05-7 鄭昭公・19 下 08-7 高渠彌・19 下 10-7 鄭子臺は、『左傳』桓十七（695BC）

初、鄭伯將以高渠彌爲卿、昭公惡之、固諫、不聽。昭公立、懼其殺己也。辛卯、弑昭公而立公子臺。

に見える。

027 王子克 19 下 07-5 辛甲・19 下 06-8 周公黑肩は、19 下 15-7 王子克の亂（『左傳』桓十八 694BC）に關連する。辛甲が【028 楚文王】（688BC）に屬する 19 下 03-5 養甥の後に、王子克が【029 衛惠公】（688BC）に屬する 19 下 13-7 右公子職の後にあるのは挿入箇所を誤ったものである。

028 楚文王 19 上 10-5 楚文王は、『左傳』莊六（688BC）

楚文王伐申。過鄧。鄧祁侯曰、吾甥也。止而享之。騅甥・聃甥・養甥請殺楚子。鄧侯弗許。

に初見し、19 上 14-5 騅甥・19 上 15-5 聃甥・19 下 03-5 養甥・19 上 14-6 鄧祁侯もここに見える。

19 上 13-4 楚保申・19 下 08-6 潘和も楚文王に關連する。

029 衛惠公 19 下 01-6 衛惠公・19 下 05-6 公子黔牟・19 下 06-6 左公子泄・19 下 13-7 右公子職および 18 下 12-3 衛太子伋・18 下 14-3 公子壽は、『左傳』桓十六（696BC）

初、衛宣公烝於夷姜、生急子、屬諸右公子。爲之娶於齊而美、公取之。生壽及朔。屬壽於左公子。夷姜縊。宣姜與公子朔構急子。公使諸齊。使盜待諸莘、將殺之。壽子告之、使行。不可、曰、棄父之命、惡用子矣。有無父之國則可也。及行、飲以酒。壽子載其旌以先、盜殺之。急子至曰、我之求也、此何罪。請殺我乎。又殺之。

二公子故怨惠公。十一月、左公子洩・右公子職立公子黔牟。惠公奔齊。

に見え、衛太子伋・公子壽以外は、『左傳』莊六（688BC）「夏、衛侯入、放公子黔牟于周、放甯跪于秦、殺左公子洩・右公子職」にも見える。19 下 13-7 右公子職が【026 鄭昭公】（695BC）の後にあるので、【029 衛惠公】は 688BC に繋がるものとなる。衛惠公・公子黔牟・左公子泄が【028 楚文王】（688BC）に屬する 19 上 14-6 鄧祁侯・19 下 08-6 潘和の間にあるのは不適切である。列の移動がなかったとすれば、挿入箇所の誤りである。

なお『左傳』莊六においては、【029 衛惠公】は夏、【028 楚文王】は冬に繋けられているが、古今人表は【028 楚文王】を前においている。同年に屬する複数の事件については、さらに嚴密に先後を配慮することはしていないのである。

18 下 12-3 衛太子伋・18 下 14-3 公子壽は、696BC に繋がるとしても、この位置は前

に過ぎる。衛惠公に關連するものとして、本來 19 下 01-3 あたりにあったものが誤って移動したものであろう。

19 下 13-7 右公子職の位置にも問題がある。19 下 06-6 左公子泄より一等降る根拠が見出しがたい。本來は左公子泄の直後に置かれていたはずである。編纂の途中でまずは列が動き、さらに【026 鄭昭公】の 6 行が挿入されたため、行が進んだものであろう。【027 王子克】に屬する 19 下 15-7 王子克および【031 齊襄公】に屬する 20 上 02-7 紀侯・20 上 03-7 紀季も同じく行が進んでいる。

030 秦武公・燕桓侯 19 下 09-6 秦武公・19 下 12-6 燕桓侯の元年 697BC は【029 衛惠公】の 688BC より遡るが、これは王侯表の段階で、元年 699BC の衛惠公の後に置かれていたものがそのままになっているのである。上述の古今人表の編纂過程を傍證する事例となる。

031 齊襄公 19 下 09-4 齊寺人費・19 下 11-5 石之紛如・19 下 09-8 連稱・19 下 11-8 管至父・19 下 13-8 雍人稟・19 下 12-9 公子亡知は、19 下 09-9 齊襄公の弑殺（『左傳』莊八 686BC）に關連する。また、20 上 02-7 紀侯・20 上 03-7 紀季は齊襄公の紀併合（『左傳』莊三 691BC・莊四 690BC）に關連する。【031 齊襄公】は 686BC に繋がる。

19 上 15-4 王子成父・19 上 12-9 長狄僑如是、『左傳』文十一（616BC）

冬十月甲午、敗狄于鹹、獲長狄僑如。富父終甥椿其喉以戈、殺之。埋其首於子駒之門。以命宣伯。初、宋武公之世、鄭瞞伐宋。司徒皇父帥師禦之、彤班御皇父充石、公子穀甥爲右、司寇牛父駟乘、以敗狄于長丘、獲長狄緣斯。皇父之二子死焉、宋公於是以門賞彤班、使食其征、謂之彤門。晉之滅潞也、獲僑如之弟焚如。齊襄公之二年（696BC）、鄭瞞伐齊。齊王子成父獲其弟榮如、埋其首於周首之北門。衛人獲其季弟簡如、鄭瞞由是遂亡。

に見える。「齊襄公之二年」に従ってここに置いたものである。ちなみに『史記』は、

十一年（616BC）十月甲午、魯敗翟于鹹、獲長翟僑如、富父終甥春其喉、以戈殺之。初、宋武公之世、鄭瞞伐宋、司徒皇父帥師禦之、以敗翟于長丘、獲長翟緣斯。晉之滅潞、獲僑如弟焚如。齊惠公二年（607BC）、鄭瞞伐齊、齊王子城父獲其弟榮如、埋其首於北門。衛人獲其季弟簡如。鄭瞞由是遂亡。（魯世家）

惠公二年（607BC）、長翟來、王子城父攻殺之、埋之於北門。（齊世家）

と、「襄公」を「恵公」に作る。

032 齊桓公 20 上 03-2 管仲・20 上 02-3 鮑叔牙・20 上 05-3 召忽・20 上 08-3 隰朋・20 上 10-3 甯戚・20 上 03-4 高傒・20 上 12-4 賓須亡・20 上 14-4 麥丘人・20 下 01-4 輪邊・20 下 04-4 平陵老・20 下 06-4 愚公・19 下 15-6 齊公子糾・20 上 05-7 齊伯氏・20 上 07-7 寺人貂・20 上 09-7 易牙・20 上 10-7 常之巫・20 上 14-7 衛公子開方・19 下 15-8 鮒里乙は、19 下 15-5 齊桓公に關連する。齊桓公元年（685BC）に繋がる。

033 魯公孫隱 『人表考』は、20 上 03-6 魯公孫隱を、『左傳』莊十（684BC）「夏六月、齊師・宋師次于郎。公子偃曰、…」の公子偃とする。

034 曹釐公 20 上 08-6 曹釐公の位置は、曹僖公（670-662BC）の在位年代と矛盾する。【015 曹嚴公】で上述したように、古今人表は先代の曹嚴公元年を桓公九年（701BC）から隱公九年（714BC）に誤って 13 年遡らせている。曹釐公についても、同じく 13 年遡らせてその元年を 683BC としたものであろう。

035 宋愍公 20 上 12-3 宋仇牧・20 上 05-5 蕭叔大心・20 上 07-5 石祁子・20 上 11-6 宋桓公・20 上 05-8 南宮萬・20 上 07-8 子游・20 上 08-8 猛獲・20 上 09-8 南宮牛は、20 上 02-8 宋愍公の弑殺（『左傳』莊十二 682BC）に關連する。

036 魯曹劌 20 上 15-3 魯曹劌は、『公羊』莊十三（681BC）

〔經〕冬、公會齊侯盟于柯。〔傳〕何以不日。易也。其易奈何。桓之盟不日、其會不致、信之也。其不日何以始乎此。莊公將會乎桓、曹子進曰、君之意何如。莊公曰、寡人之生、則不若死矣。曹子曰、然則君請當其君、臣請當其臣。莊公曰、諾。於是會乎桓。莊公升壇、曹子手劍而從之。管子進曰、君何求乎。曹子曰、城壤壓竟、君不圖與。管子曰、然則君將何求。曹子曰、願請汶陽之田。管子顧曰、君許諾。桓公曰、諾。曹子請盟、桓公下與之盟。已盟、曹子標劍而去之。要盟可犯、而桓公不欺、曹子可讎、而桓公不怨、桓公之信著乎天下、自柯之盟始焉。

に見える。

037 鄭子嬰齊 20 上 10-5 原繁・20 上 11-8 鄭子嬰齊・20 上 14-8 傅瑕は、『左傳』莊十四（680BC）の鄭厲公復辟に關連する。

038 曲沃武公 20 上 15-8 晉愍侯・20 下 03-8 曲沃武公は、曲沃の晉併合（『史記』晉世家 / 晉侯緡二十八年 679BC）に関わる。

039 楚文王卒 20 下 05-3 楚鬬拳は、『左傳』 莊十九 (675BC)

春、楚子禦之、大敗於津。還、鬬拳弗納。遂伐黃、敗黃師于蹇陵。還、及湫、有疾。

夏六月庚申、卒。鬬拳葬諸夕室、亦自殺也、而葬於經皇。

に見える。20 下 09-5 息嬀は楚文王の夫人、20 下 09-7 息侯は息嬀の前夫である。

040 王子頹の亂 20 下 12-5 虢叔・20 下 10-6 燕巖侯・20 下 10-7 惠王・20 下 08-8 蔦國・20 下 10-8 邊伯は、『左傳』

初、王姚嬖于莊王、生子頹。子頹有寵、蔦國爲之師。及惠王即位、取蔦國之圃以爲囿。邊伯之宮近於王宮、王取之。王奪子禽・祝跪與詹父田、而收膳夫之秩、故蔦國・邊伯・石速・詹父・子禽・祝跪作亂、因蘇氏。秋、五大夫奉子頹以伐王、不克、出奔溫。蘇子奉子頹以奔衛。衛師・燕師伐周。冬、立子頹。(莊十九 675BC)

二十年春、鄭伯和王室、不克。執燕仲父。夏、鄭伯遂以王歸、王處于櫟。秋、王及鄭伯入于鄆。遂入成周、取其寶器而還。冬、王子頹享五大夫、樂及徧舞。鄭伯聞之、見虢叔、曰、寡人聞之、哀樂失時、殃咎必至。今王子頹歌舞不倦、樂禍也。夫司寇行戮、君爲之不舉、而況敢樂禍乎。奸王之位、禍孰大焉。臨禍忘憂、憂必及之。盍納王乎。虢公曰、寡人之願也。(莊二十 674BC)

二十一年春、胥命于弭。夏、同伐王城。鄭伯將王自圉門入、虢叔自北門入、殺王子頹及五大夫。(莊二十一 673BC)

に見える 20 下 06-8 王子頹の亂に關連する。

ここの燕は南燕だが、『史記』燕世家

(莊公)十六年(675BC)、與宋・衛共伐周惠王、惠王出奔溫、立惠王弟穰爲周王。

十七年(674BC)、鄭執燕仲父而內惠王于周。

は、北燕と關連づけている。元年が秦宣公(675-664BC)より遡る燕巖侯(690-658BC)がこの位置にあるのは、『史記』に據って移動させたものである。

041 陳公子完 20 下 08-4 陳公子完・20 上 05-6 顓孫・20 下 05-7 陳宣公・21 上 01-8 陳太子禦寇は、『左傳』 莊二十二 (672BC)

二十二年、春、陳人殺其太子御寇。陳公子完與顓孫奔齊。顓孫自齊來奔。齊侯使敬仲爲卿、…

に關わる。『左傳』では陳宣公は見えないが、『史記』陳世家

(宣公)二十一年(672BC)、宣公後有嬖姫生子款、欲立之、乃殺其太子禦寇。禦寇素愛厲公子完、完懼禍及己、乃奔齊。齊桓公欲使陳完爲卿、…

は、陳宣公の關與を明言しており、古今人表が『左傳』に加えて『史記』を用いていることを知る。

問題となるのは陳宣公・顓孫の位置である。すなわち、陳宣公は20下02-7 釐王(681-677BC)と【039 楚文王卒】(675BC)に屬する20下09-7 息侯との間に置かれており、また顓孫も【033 魯公孫隱】(684BC)と上述の如く683BCに誤認された【034 曹釐公】との間に置かれている。陳宣公(692-648BC)は、本來、釐王より前にあったものが、672BCに關連づけるべく移動した際に、その位置を誤ったものである。顓孫については、これが挿入される際には、曹釐公(670-662BC)の在位年代が正しく認知され、その前に置かれたものであろう。

042 鄭文公 20下13-7 鄭高克・20下15-7 公孫素は、『詩序』鄭風/清人

清人、刺文公也。高克好利而不顧其君、文公惡而欲遠之不能。使高克將兵而禦狄于竟、陳其師旅、翱翔河上。久而不召、眾散而歸、高克奔陳。公子素惡高克進之不以禮、文公退之不以道、危國亡師之本、故作是詩也。

に見える。この事件は『左傳』閔二(660BC)「鄭人惡高克、使帥師次于河上、久而弗召、師潰而歸、高克奔陳。鄭人爲之賦清人」に見えるが、【042 鄭文公】は20下13-6 鄭文公(672-628BC)の元年たる672BCに繋げられている。

21上02-6 彊鉏は、『左傳』莊十六(678BC)

鄭伯自櫟入、緩告于楚。秋、楚伐鄭、及櫟、爲不禮故也。鄭伯治與於雍糾之亂者、九月、殺公子闕、刖彊鉏。公父定叔出奔衛。三年而復之、曰、不可使共叔無後於鄭。使以十月入、曰、良月也、就盈數焉。君子謂彊鉏不能衛其足。

に見え、文公ではなく先代の厲公に關連する。古今人表における誤である。

043 魯禦孫 21上01-5 魯禦孫は、『左傳』莊二十四(670BC)

二十四年春、刻其桷、皆非禮也。御孫諫曰、…秋、哀姜至、公使宗婦覲、用幣、非禮也。御孫曰、…

のみに見える。

044 齊桓公の霸業 21 上 05-5 召伯廖は、『左傳』莊二十七（667BC）「王使召伯廖賜齊侯命、且請伐衛、以其立子頹也」、21 上 06-4 楚屈完・21 上 02-7 陳轅濤塗・21 上 04-7 楚申侯は『左傳』僖四（656BC）の齊桓公の対楚侵攻、21 上 03-3 宰孔は『左傳』僖九（651BC）の葵丘の盟に見え、いずれも齊桓公の霸業に関連する。【042 鄭文公】（672BC）と【046 魯の内亂】（662BC）に間に置かれているので、667BC に繋けられたものとなる。

045 虢滅亡の豫言 20 下 12-4 虢史嚚・20 下 15-4 周内史過は、『左傳』莊三十二（662BC）秋七月、有神降于莘。惠王問諸内史過曰、是何故也。對曰、…神居莘六月、虢公使祝應・宗區・史嚚享焉。神賜之土田。史嚚曰、…に見える。

【044 齊桓公の霸業】（667BC）に屬する 21 上 06-4 楚屈完が、【045 虢滅亡の豫言】の後にあるのは、【045 虢滅亡の豫言】の挿入箇所を誤ったものであろう。

046 魯の内亂 21 上 05-3 魯公子季友・21 上 09-3 魯公子奚斯・21 上 07-5 齊中孫湫・21 上 06-7 魯公子般・21 上 08-7 魯閔公・21 上 04-8 魯公子牙・21 上 06-8 圉人犖・21 上 08-8 公子慶父・21 上 10-8 ト齡は、『左傳』莊三十二（662BC）の魯莊公卒に始まる魯の内亂に関係する。

047 衛の滅亡 21 上 13-3 衛弘賁・21 上 11-5 許夫人・21 上 12-6 衛戴公・21 下 01-7 史華龍滑・21 上 12-8 衛懿公は、狄滅衛（『左傳』閔二 660BC）に関わる。

048 晉獻公 21 下 03-4 梁餘子養・21 下 05-4 罕夷・21 下 06-4 申生・21 下 07-4 狐突・21 上 13-5 先丹木・21 上 15-5 羊舌大夫・21 上 15-8 晉獻公は、『左傳』閔二（660BC）

晉侯使大子申生伐東山臯落氏。…狐突御戎、先友爲右。梁餘子養御罕夷、先丹木爲右。羊舌大夫爲尉。…

に見え、【048 晉獻公】は 660BC に繋かる。

21 下 01-3 荀息・21 下 07-3 宮之奇・21 上 15-4 ト偃・21 下 01-4 辛廖・21 下 02-5 史蘇・21 上 15-6 趙夙・21 下 02-6 畢萬・21 下 04-6 士蔭・21 下 05-6 晉猛足・21 下 07-6 井伯・21 下 03-7 奚齊・21 下 04-7 卓子・21 下 07-7 趙孟・21 下 03-8 優施・21 下 04-8 梁五・21 下 05-8 東關五・21 下 07-8 虞公・21 下 10-8 虢公・21 下 02-9 晉驪姫は晉獻公に関わる。

049 秦繆公 21 下 10-3 百里奚・21 下 14-3 奄息・22 上 01-3 中行・22 上 03-3 鍼虎・

21 下 12-4 秦繆夫人・21 下 14-4 公孫枝・22 上 01-4 繇余・22 上 03-4 蹇叔・22 上 04-4 燭之武・22 上 08-4 ト徒父・22 上 11-4 禽息・22 上 12-4 王廖は、21 下 09-4 秦繆公に關係する。秦繆公元年（659BC）に繋がるものであろう。

050 燕襄公 22 上 02-6 燕襄公（657-618BC）の元年は 21 下 14-6 蔡嚴侯（645-612BC）の元年より遡る。次代の 22 下 10-5 燕桓公が第 5 列に置かれていることを踏まえれば、あるいは王侯表の段階で、21 下 03-5 魯釐公（659-627BC）の次にあったのかもしれない。

051 楚圍許 21 下 06-5 楚逢伯・21 下 10-7 蔡繆公・21 下 13-7 許釐公は、『左傳』僖六（654BC）

秋、楚子圍許、以救鄭。諸侯救許。乃還。冬、蔡穆侯將許僖公以見楚子於武城。

…楚子問諸逢伯、…

に見える。

蔡侯の諡號に『史記』は一貫して「侯」を用いる。『春秋經』は宣公（隱八）・文公（宣十七）・景公（襄三十）・靈公（昭十一）・平公（昭二十一）・昭公（哀四）は「公」を用いるが、桓侯（桓十七）のみは「侯」を用いる。一方、『左傳』は、桓侯（桓十七）・哀侯（莊十・莊十四）・穆侯（僖六）・文侯（襄二十）・景公（成二）／景侯（襄三十）・靈公（昭十三）／靈侯（昭十一）・平公（昭二十一）／平侯（昭二十一）・昭侯（定三・哀四）と「侯」を用いることがより一般的だが、「公」を用いる場合もある。『春秋經』『左傳』の利用した系譜資料が「侯」を用い、『春秋經』はほかの諸侯に合わせてこれを「公」に改變したが、「桓侯」については改變を失念し、『左傳』は『春秋經』に合わせて一部を「公」に改變したが、ほとんどは原資料のまま「侯」を用いたものと思われる。一方で、古今人表は基本的に「侯」を用いるが、蔡繆公および 23 下 01-5 蔡文公・32 下 09-7 蔡成公は「公」を用いる。「公」の使用に特段の理由は認められず、「侯」を用いることを失念したものであろう。

052 鄭子華 21 下 13-8 鄭子華は、『左傳』僖七（653BC）「鄭伯使大子華聽命於會」に初見する。

053 衛文公 21 下 08-5 衛甯嚴子は、『左傳』僖十九（641BC）「秋、衛人伐邢、以報菟園之役。於是衛大旱、卜有事於山川、不吉。甯莊子曰、…」に見え、當時の衛侯が 21 下 08-6 衛文公である。

054 宋襄公・蔡嚴侯 21 下 11-6 宋襄公 (650-637BC)・21 下 14-6 蔡嚴侯 (645-612BC) の元年は、【053 衛文公】(641BC) より遡る。王侯表の段階において元年の順で 21 下 08-6 衛文公 (659-635BC) の後に置かれたものがそのままになっているのである。

なお、21 下 03-3 宋公子目夷は、『左傳』僖八 (652BC)「宋公疾、大子茲父固請曰、目夷長且仁、君其立之。公命子魚。子魚辭曰、…」に初見し、宋襄公 (大子茲父) の兄であり、また、22 上 06-4 内史叔興は、『左傳』僖十六 (644BC)

春、隕石于宋、五、隕星也。六鵠退飛、過宋都、風也。周内史叔興聘于宋、宋襄公問焉、…

に初見する。これらは、宋襄公の近くにあったはずだが、【048 晉獻公】・【049 秦繆公】に属する人物が挿入される過程で、移動してしまったものと思われる。

055 王子帯の亂 21 下 10-5 富辰・22 上 01-7 襄王・22 上 03-8 惠后は、22 上 03-9 王子帯の亂に關係する。『左傳』僖二十二 (638BC)「王子帯自齊復歸于京師」により、638BC に繋けている。

056 晉惠公 21 下 11-5 晉冀芮・21 下 13-5 慶鄭・21 下 14-5 韓簡・22 上 05-6 梁卜招父・22 上 07-7 里克・22 上 09-7 虢射・22 上 06-8 梁伯・22 上 11-8 晉懷公は、22 上 04-7 晉惠公に關わる。晉惠公卒年 (637BC) に繋かる。

057 衛成公 22 上 09-6 衛元咺・22 上 13-6 叔武・22 上 15-2 甯武子・22 上 15-6 鍼嚴子は、22 上 15-8 衛成公に關わる。衛成公元年 (634BC) に繋かる。

058 齊孝公 22 下 06-8 齊公子無詭・22 下 11-8 齊昭公は、22 上 15-7 齊孝公に關わる。齊孝公卒年 (633BC) に繋かる。

059 晉文公 22 下 01-3 狐偃・22 下 02-3 趙衰・22 下 05-3 衰妻・22 下 06-3 介子推・22 下 08-3 推母・22 下 11-3 郤穀・22 下 12-3 舟之僑・22 下 14-3 荀林父・23 上 01-3 先軫・22 下 02-4 夫人姜氏・22 下 04-4 魏犢・22 下 06-4 顛頡・22 下 07-4 胥臣・22 下 08-4 賈佗・22 下 11-4 董因・22 下 12-4 豎頭須・21 下 15-5 鄭叔詹・22 上 04-5 釐負羈・22 上 05-5 羈妻・22 上 06-5 曹豎侯孺・22 上 10-5 楚子玉・22 上 12-5 鬬宜申・22 上 14-5 成大心・22 下 01-5 欒悼子・22 下 03-5 晉李離・22 下 05-5 寺人披・22 下 04-6 倉葛は、22 上 14-4 晉文公に關わる。22 下 04-6 倉葛が、【057 衛成公】(634BC)・【061 鄭繆公】(627BC) の間にあることから、踐土の盟の行われた 632BC に繋けられたものと思われる。

なお、22 上 02-5 皇武子は、『左傳』僖二十四（636BC）・僖三十三（627BC）に見え、21 下 15-5 鄭叔詹と同時に鄭に仕えていたことになる。そのため、鄭叔詹の後に置かれているのである。

060 陳繆公・陳共公 22 下 12-6 陳繆公（647-632BC）・23 上 01-6 陳共公（631-614BC）は、陳繆公卒年（『左傳』僖二十八 632BC）に繋がる。【061 鄭繆公】（627BC）より後に置かれているのは不適切である。鄭繆公もしくは陳繆公・陳共公の列が移動したものであると思われるが、どちらがどのように動いたかは確言できない。

061 鄭繆公 22 下 05-7 鄭子臧・23 上 10-4 石癸は、22 下 06-6 鄭繆公に関わる。鄭繆公元年（627BC）に繋がる。石癸が離れているのは、【066 晉秦交戦】に属する人物が挿入される過程で移動したものであろう。

22 下 09-6 石匄は、『左傳』襄十一（562BC）によく初見し、鄭繆公とは直接関係をもたない。石癸と同じく石氏であることから誤ってここに置かれたものである。

062 齊國嚴子 22 下 14-4 齊國嚴子は、『左傳』僖三十三（627BC）「齊國莊子來聘」に見える。

063 楚成王 22 上 13-9 潘崇・23 上 12-9 楚繆王は22 上 09-9 楚成王の弑殺（『左傳』文元 626BC）に関わる。

064 周内史叔服 23 上 01-4 周内史叔服は、『左傳』文元（626BC）「王使内史叔服來會葬」に見える。

065 魯文公 23 上 04-6 魯文公・23 上 04-7 夏父不忌は、『左傳』文二（625BC）「秋八月丁卯、大事于大廟、躋僖公。逆祀也。於是夏父弗忌爲宗伯」に関わる。

066 晉秦交戦 23 上 02-3 狼瞫・23 上 04-3 陽處父・23 上 06-3 甯羸・23 上 07-3 臾駟・23 上 10-3 鄭弦高・23 上 04-4 孟明視・23 上 06-4 西乞術・23 上 08-4 士會・23 上 09-4 繞朝・22 下 13-5 秦康公・23 上 01-5 晉襄公・23 上 09-7 胥申父・23 上 11-7・狐射姑・24 上 09-5 箕鄭・24 上 11-5 公子雍は、晉文公卒（『左傳』僖三十二 628BC）～士會歸國（『左傳』文十三 614BC）の間の晉秦交戦および晉の内紛に関わる。

【067 邾文公・邾定公】（614-613BC）の前にあるので、士會歸國の年次たる 614BC に繋がる。晉襄公（627-621BC）・秦康公（620-609BC）は本来この順で22 下 07-5 曹文公（617-595BC）・22 下 10-5 燕桓公（617-602BC）の前にあったはずだが、現在位置に移

動した際に順番を轉倒したものであろう。

24 上 09-5 箕鄭・24 上 11-5 公子雍はかなり離れている。これらが【066 秦楚交戰】に屬することが失念され、その前に【070 宋昭公】以下が挿入されたためであろう。

なお士會は 27 上 03-2 范武子と同一人物である。

067 邾文公・邾定公 『左傳』文十三 (614BC) に 23 上 04-5 邾文公の卒、文十四 (613BC) に 23 上 09-5 邾子貜且 (邾定公) の立が見える。

068 魯公孫敖 『春秋經』文十四 (613BC) に、23 上 13-5 魯公孫敖の卒が見える。

069 單伯 23 上 14-6 單伯は、『左傳』文十四 (613BC) 「冬、單伯如齊、請子叔姬、齊人執之。又執子叔姬」に見える。23 上 07-6 周匡王 (612-607BC) の前に置かれるべきであり、列の移動がなかったとすれば挿入箇所を誤ったものである。

070 宋昭公 23 下 04-3 樂豫・23 上 12-4 公孫壽・23 上 14-4 蕩意諸・23 上 07-5 宋子哀は、23 上 07-7 宋昭公の弑殺 (『左傳』文十六 611BC) に關わる。宋子哀が【067 邾文公・邾定公】(614-613BC) に屬する邾子貜且の前に、宋昭公が【066 晉秦交戰】(614BC) に屬する胥申父の前にあるのは、不適切である。

071 宋方叔・宋伯夏 23 上 15-3 宋方叔 (原注「嘉子」) は、『毛詩正義』商頌/那「世本云、…正考甫生孔父嘉、爲宋司馬華督殺之、而絕其世。其子木金父降爲士。木金父生祁父、祁父生防叔、爲華氏所偪奔魯爲防大夫、故曰防叔。防叔生伯夏」の防叔に當たる。【012 宋殤公】で上述したように、三代前の 18 下 08-3 宋孔父が、宋殤公の時に当たるので、本来は宋殤公の三世代後の 22 上 10-7 宋成公の上、22 上 10-3 あたりに置かれていたはずである。【059 晉文公】以下が挿入されて移動したものであろう。

方叔の子である 23 下 09-4 宋伯夏が、宋成公の次世代である 23 上 07-7 宋昭公・23 下 15-7 宋文公の間に置かれていることは、この推定を傍證する。

072 魯宣公 23 上 13-3 叔仲惠伯・23 下 01-4 公冉務人・23 下 03-4 卜楚丘・23 上 15-6 魯叔孫得臣は、23 上 14-7 魯宣公の即位の際の内紛 (『左傳』文十八 609BC) に關わる。叔仲惠伯が【070 宋昭公】(611BC) に屬する 23 下 04-3 樂豫の前にあるのは不適切である。

073 齊懿公 23 上 11-6 齊君舍・23 下 01-8 邴歆・23 下 03-8 閭職は、23 下 01-9 齊懿公の弑殺 (『左傳』文十八 609BC) に關わる。

074 晉靈公 23 下 06-3 董狐・23 下 05-4 晉趙盾・23 下 08-4 鉏麇・23 下 06-5 靈輒・23 下 07-5 祁彌明・23 下 06-6 晉成公・23 下 05-8 晉趙穿・24 上 03-7 翟豐舒は、23 下 05-9 晉靈公の弑殺（『左傳』宣二 607BC）に関わる。

075 周定王 23 下 12-7 周定王（606-586BC）の元年は、23 下 15-7 宋文公（610-589BC）の元年より降る。定王の先代 23 上 07-6 周匡王が第 6 列にあることを考慮すれば、定王も、王侯表の段階では 23 下 06-6 晉成公（606-600BC）の次に置かれていたのかもしれない。

076 鄭靈公 24 下 02-4 鄭公子去疾・24 上 12-7 鄭襄公・23 下 15-8 公子歸生・24 上 02-8 子公は、23 下 12-8 鄭靈公の弑殺（『左傳』宣四 605BC）に関わる。鄭襄公・鄭公子去疾が離れているのは、【077 楚嚴王】が誤って挿入されたからである。

077 楚嚴王 23 下 14-3 令尹子文・24 上 04-3 楚薳賈・23 下 13-4 鬬伯比・23 下 14-04 楚嚴王・24 上 04-4 箴尹克黃・23 下 11-5 楚子良・24 上 07-8 楚子越は、『左傳』宣四（605BC）

初、楚司馬子良生子越椒。子文曰、…及令尹子文卒、鬬般爲令尹、子越爲司馬。薳賈爲工正、譖子揚而殺之、子越爲令尹、已爲司馬。子越又惡之、乃以若敖氏之族、圍伯嬴於轅陽而殺之、遂處烝野、將攻王。…初、若敖娶於邲、生鬬伯比。若敖卒、從其母畜於邲、淫於邲子之女、生子文焉。…其孫箴尹克黃、使於齊、還及宋、聞亂の若敖氏滅亡に見える。令尹子文（鬬穀於菟）は、『左傳』莊三十（664BC）～僖二十七（633BC）に見えるが、古今人表は宣四に見えることを優先してここに置いているのである。また、23 下 13-4 鬬伯比は、【021 楚武王】に属する 19 上 02-5 鬬伯比の重出である。鬬伯比は、『左傳』桓六（706BC）～桓十三（699BC）に見えることから、19 上 02-5 に置かれて【021 楚武王】（706BC）に属したが、それが失念された上で、宣四に見えるため、23 下 13-4 に重出したものである。古今人表における人物の位置が、個々に決定されるばかりではなく、まずは特定の事件の記述に見える人物群として決定される場合があったことを明示する事例である。

24 上 06-3 申叔時・24 上 09-3 孫叔敖・24 上 02-4 王孫滿・24 上 09-4 五參・24 上 10-4 陳應・24 上 12-4 申公申培・24 上 15-4 樂伯・24 下 01-4 優孟・23 下 13-5 士貞子・24 上 05-5 晉解揚・24 上 01-6 逢大夫・24 上 08-6 申舟・24 上 09-7 少師慶・24 上 11-7 士亹も楚莊王に関わる。

24 上 06-4 魏顆は『左傳』宣十五 (594BC)

秋七月、秦桓公伐晉、次于輔氏。壬午、晉侯治兵于稷、以略狄土、立黎侯而還。

及雒、魏顆敗秦師于輔氏、獲杜回、秦之力人也。

に見え、24 上 07-5 荀庚は『春秋』成三 (588BC)「冬十一月、晉侯使荀庚來聘、且尋盟」に初見するが、いずれも楚莊王とは関係しない。あるいは郟の戦 (『左傳』宣十二 597BC) に参加した魏頡・荀首を誤ったものであろう。

078 秦景公 24 上 13-5 秦景公 (576-537BC) の在位年代は、この位置に適合しない。王侯表の段階で、秦桓公 (604-577BC) の在位年代を誤って用いたものであろう。

079 王子伯廖 24 上 02-5 王子伯廖は『左傳』宣六 (603BC)

鄭公子曼滿與王子伯廖語、欲爲卿。伯廖告人曰、無德而貪、其在周易豐之離、弗過之矣。間一歲、鄭人殺之。

に見える。【077 楚嚴王】(605BC)に屬する 23 下 13-5 士貞子の後に置かれたものである。

080 單襄子 23 下 04-6 單襄子は、25 下 02-4 單襄公の重出である。「單子」「單襄公」は頻見するが、「單襄子」は見えない。單襄公は『左傳』では成元 (590BC) に初見する。『國語』では、周語中「定王使單襄公聘於宋。遂假道於陳、以聘於楚。…六年 (601BC)、單子如楚」が最も早く年代附けられるが、23 下 01-5 蔡文公 (611-592BC) と【074 晉靈公】(607BC) の間に置かれていることに適合しない。

081 燕宣公 24 上 15-6 燕宣公 (601-587BC) の元年は、24 上 12-6 陳成公 (598-569BC) の元年より遡る。先代の 22 下 10-5 燕桓公が第 5 列に屬することを踏まえれば、王名表の段階では 24 上 13-5 秦景公(上述の如く秦桓公 604-577BC の在位年代に誤っていた)の次にあった可能性がある。

082 陳靈公 23 下 15-5 泄冶・24 上 12-6 陳成公・23 下 15-9 夏姬・24 上 01-9 孔寧・24 上 02-9 儀行父は、23 下 12-9 陳靈公の弑殺 (『左傳』宣十 599BC) に關わる。泄冶が【079 王子伯廖】(603BC) より前にあるのは挿入位置を誤ったものである。陳成公が離れているのは、【077 楚嚴王】が誤って挿入されたからである。

083 齊惠公 24 上 09-6 齊惠公は、『春秋經』宣十 (599BC)「己巳、齊侯元卒、齊崔氏出奔衛」に基づき 599BC に繋がる。

084 晉先穀 『春秋經』宣十三 (596BC) に、24 上 05-8 先穀の死が見える。【077 楚

嚴王】(605BC)に屬する24上07-8楚子越の前にあるのは不適切である。

085 孔達 『春秋經』宣十四(595BC)に24上01-5孔達の死が見える。

086 王札子 24上03-6王札子・24上05-7召伯・24上08-7毛伯は、『春秋經』宣十五(594BC)「王札子殺召伯・毛伯」に見える。【077 楚嚴王】(605BC)に屬する24上08-6申舟・24上09-7少師慶の前にあるのは不適切である。

087 魯公孫歸父 『春秋經』宣十八(591BC)に、24上05-6魯公孫歸父の出奔が見える。【077 楚嚴王】(605BC)に屬する24上08-6申舟の前にあるのは不適切である

088 楚共王 24下01-5楚鄧公鍾儀・24下05-4子反・24下05-8穀陽豎は、24下04-5楚共王(590-560BC)に關わる。【089 鞏の戰】(589BC)の前にあるので、楚共王元年(590BC)に繋がるものとなる。

089 鞏の戰 24下09-4逢丑父・24下11-4賓媚人・24下13-4范文子・25上01-4臧宣叔・24下07-5晉郤克・24下09-5辟司徒妻・24下06-7魯成公・24下09-7齊頃公・24下12-7衛定公・24下14-7衛孫良夫・25上01-7中叔于奚は、鞏の戰(『左傳』成二589BC)に關わる。

第7列の24下06-7魯成公～25上01-7中叔于奚は24下03-7周簡王(585-572BC)の後にあるが、前にあるべきであり、挿入箇所を誤ったものである。

また、27上03-2范武子も本來はこのあたりにあったものと思われる。『左傳』宣十七(592BC)

范武子將老、召文子曰、變乎、吾聞之、喜怒以類者鮮、易者實多。詩曰、君子如怒、亂庶遄沮、君子如祉、亂庶遄已。君子之喜怒、以已亂也。弗已者、必益之。郤子其或者欲已亂於齊乎。不然、余懼其益之也。余將老、使郤子逞其志、庶有豸乎。爾從二三子、唯敬。乃請老。郤獻子爲政。

では、范武子が鞏の戰を豫言しており、ついで、成二(589BC)

晉師歸、范文子後入。武子曰、無爲吾望爾也乎。對曰、師有功、國人喜以逆之。先入、必屬耳目焉、是代帥受名也、故不敢。武子曰、吾知免矣。郤伯見、公曰、子之力也夫。對曰、君之訓也、二三子之力也、臣何力之有焉。范叔見、勞之如郤伯、對曰、庚所命也、克之制也、變何力之有焉。欒伯見、公亦如之、對曰、變之詔也、士用命也、書何力之有焉。

の戦勝後の逸話にも范武子が登場する。

第2列は、范武子の前は22上15-2 甯武子まで空白であり、轉寫の誤が容易に發生しえたと思われる。

090 荀罃 24下13-5 荀罃・24下15-5 鄭賈人は、『左傳』成三(588BC)「荀罃之在楚也、鄭賈人有將竇諸褚中以出」に見える。

091 伯宗 25上02-5 伯宗は、『左傳』成五(586BC)「梁山崩、晉侯以傳召伯宗伯」の逸話によって586BCに繋げられている。25上03-5 伯宗妻は、『左傳』成十五(576BC)に見える。

092 吳壽夢 24下06-6 吳壽夢・24下14-6 申公巫臣は、『左傳』成七(584BC)「巫臣請使於吳、晉侯許之。吳子壽夢說之」に見える。吳壽夢(585-561BC)の元年は、24下12-6 鄭悼公(586-585BC)・25上05-6 燕昭公(586-574BC)の元年より降る。次代の26上14-5 吳諸樊が第5列にあることを踏まえれば、王侯表の段階では、24下04-5 楚共王(590-560BC)の次にあったものかもしれない。また申公巫臣が燕昭公の前にあるのは挿入箇所を誤ったものである。

093 趙氏誅 25上04-4 韓獻子厥・25上08-4 程嬰・25上12-4 公孫杵臼・25上08-6 趙朔・25上04-8 屠顔賈は、『左傳』成八(583BC)に見える趙氏誅に関わる。程嬰・公孫杵臼・屠顔賈は『史記』趙世家に見えるが『左傳』には見えない。25上09-4 羊舌は晉の大夫の氏であり、同事件の関係者と思われるが出典などは不明である。屠顔賈が【098 曹成公】(577BC)に屬する24下15-8 曹成公の後にあるのは不適切である。

094 晉景公 25上05-5 秦醫緩・25上07-5 桑田巫は、25上06-7 晉景公の卒(『左傳』成十581BC)に関わる。

095 周晉爭田 25上15-4 劉康公・25下02-4 單襄公は、『左傳』成十一(580BC)「晉郤至與周爭鄆田、王命劉康公・單襄公訟諸晉」に見える。

096 呂相 25上09-5 呂相は、『左傳』成十三(578BC)「夏四月戊午、晉侯使呂相絕秦」に見える。

097 鄭公子班 『左傳』成十三(578BC)に、24下13-8 鄭公子班の死が見える。

098 曹成公 25上02-3 曹刳時・24下15-8 曹成公は、『左傳』成十三(578BC)

曹人使公子負芻守、使公子欣時逆曹伯之喪。秋、負芻殺其大子而自立也、諸侯乃

請討之。晉人以其役之勞、請俟他年。冬、葬曹宣公。既葬、子臧將亡、國人皆將從之。成公乃懼、告罪、且請焉。乃反、而致其邑。

に見える。

099 王孫閔 25 上 02-6 王孫閔は、『國語』周語中「簡王八年（578BC）、魯成公來朝、使叔孫僑如先聘且告。見王孫說、與之語」に見える。25 上 05-6 燕昭公（586-574BC）の前に置かれるのは不適切である。

100 宋共公卒 25 上 03-7 宋共公・25 上 08-8 宋蕩子は、『左傳』成十五（576BC）

秋八月、葬宋共公。…蕩澤弱公室、殺公子肥。…魚石自止華元于河上。請討、許之、乃反。使華喜・公孫師帥國人攻蕩氏、殺子山。

に見える。

101 鄢陵の戦 25 下 04-4 苗賁皇・25 下 06-4 叔嬰齊・26 上 03-4 鄭唐・26 上 05-4 楚工尹襄・25 上 11-5 郟至・25 上 15-5 姚句耳・25 下 03-5 呂綺・25 下 04-5 養由基・25 下 06-5 叔山舟・25 下 06-6 鄭成公・25 上 12-7 叔孫僑如・25 上 14-7 公子偃は、鄢陵の戦（『左傳』成十六 575BC）に関わる。鄭唐・楚工尹襄が離れているのは、これらが【101 鄢陵の戦】に属することを失念した上で、【103 宋の内亂】以下を挿入したためである。

また 25 下 06-6 鄭成公の前に【102 晉厲公】（573BC）・【103 宋の内亂】（573BC）・【104 齊の内亂】があるのはおかしい。さらに第 6 列では【104 齊の内亂】に属する 25 下 03-6 鮑嚴子牽が【103 宋の内亂】に属する 25 下 05-6 向子の前にあるのに對し、第 8 列では【103 宋の内亂】に属する 25 下 08-8 宋魚石が【104 齊の内亂】に属する 25 下 11-8 慶克の前にある。【102 晉厲公】・【103 宋の内亂】・【104 齊の内亂】の挿入に問題があるようである。

102 晉厲公 25 上 10-6 郟犢・25 上 11-6 郟錡・25 上 13-6 中行偃・25 上 15-6 胥童・25 下 01-6 欒書・25 下 02-6 羊魚・25 下 01-7 長魚矯・26 上 13-9 程滑は、25 上 10-8 晉厲公の弑殺（『左傳』成十八 573BC）に関わる。

103 宋の内亂 25 下 08-4 宋華元・25 下 05-6 向子・25 下 08-7 羊斟・25 下 08-8 宋魚石・26 上 15-9 西鉏吾は宋の内亂（『左傳』成十八 573BC）に関わる。

104 齊の内亂 25 下 08-5 匡句須・25 下 12-5 鮑國・25 下 03-6 鮑嚴子牽・26 上 12-7 齊靈公・25 下 11-8 慶克・25 下 12-8 國佐は齊の内亂（『左傳』成十八 573BC）に関わる。

齊靈公(581-554BC)が離れているのは、王侯表の段階では25上03-7宋共公(588-576BC)・25上09-7宋平公(575-532BC)の間にあったものを移動した際に挿入箇所を誤ったものであろう。

『左傳』成二杜注「媚人、國佐也」に従うならば、國佐は【089 鞏の戰】に屬する24下11-4賓媚人の重出である。

105 孟獻子 25下10-4孟獻子・25下12-4樂正求・25下14-4牧中は、『孟子』萬章下「孟獻子、百乘之家也、有友五人焉。樂正裘・牧仲、其三人、則予忘之矣」に見える。孟獻子(仲孫蔑)は、『春秋經』では宣九(600BC)に初見し、襄十九(554BC)に卒している。【103 宋の内亂】(573BC)・【106 晉悼公】(573BC)の間にあるので、『左傳』成十八(573BC)

十二月、孟獻子會于虛朮、謀救宋也。宋人辭諸侯而請師以圍彭城。孟獻子請于諸侯、而先歸會葬。

を格別に評價して、573BCに繋けているようである。

106 晉悼公 26上07-4祁奚・26上08-4羊舌職・26上10-4魏絳・26上11-4張老・26上12-4籍偃・25下13-5晉解狐・25下15-5祁午・26上01-5韓亡忌・26上03-5銅鞮伯華・26上01-6楊干は、25下15-4晉悼公(572-558BC)の大夫である。【108 季文子】(568BC)の前にあり、悼公が擁立された573BCに繋がる。

26上13-4汝齊は『左傳』襄二十六(547BC)「晉人執寧喜・北宮遺、使女齊以先歸」に初見し、昭五(537BC)「公如晉、自郊勞至于贈賄、無失禮。晉侯謂女叔齊曰」に終見するのでここに置かれるのは不適當である。晉平公(557-532BC)の大夫であり、同じ大夫であることから誤って置かれたものであろう。

107 楚の頽勢 『左傳』襄二(571BC)「楚公子申爲右司馬、多受小國之賂、以偪子重・子辛。楚人殺之」に26上05-8楚公子申の誅が見え、襄三(570BC)

春、楚子重伐吳、爲簡之師。克鳩茲、至于衡山。使鄧廖帥組甲三百、被練三千、以侵吳。吳人要而擊之、獲鄧廖。其能免者、組甲八十、被練三百而已。子重歸、旣飲至、三日、吳人伐楚、取駕。駕、良邑也。鄧廖、亦楚之良也。君子謂子重於是役也、所獲不如所亡。楚人以是咎子重、子重病之、遂遇心病而卒。

に25下14-6鄧廖の戦死が見え、襄五(568BC)「楚人討陳叛故、曰、由令尹子辛實侵

欲焉。乃殺之」に、26 上 08-8 公子壬夫の誅が見える。鄧廖が【106 晉悼公】(573BC)に属する 26 上 01-6 楊干の前にあるのは不適切である。

108 季文子 26 上 02-6 子服佗は、『國語』魯語上「季文子相宣・成、無衣帛之妾、無食粟之馬。仲孫它諫曰、…」に、26 上 08-5 魯匠慶は、『左傳』襄四 (569BC)「匠慶謂季文子曰、…」に、26 上 09-7 魯襄公 (572-542BC) は、『左傳』襄五 (568BC)

季文子卒、大夫入斂、公在位。宰庀家器爲葬備、無衣帛之妾、無食粟之馬、無藏金玉、無重器備。君子是以知季文子之忠於公室也。相三君矣、而無私積、可不謂忠乎。

に見え、ともに季文子に關係する。季文子の卒年次たる 568BC あたりに相應しい。季文子は 27 上 02-3 に置かれているが、本來の位置から移動したものであろう。第 3 列は、百衲本では季文子の前は 25 上 02-3 曹刿時まで空白であり、轉寫の誤が容易に發生しえたと思われる。

109 子駟 『左傳』襄七 (566BC) には、26 上 14-8 子駟による 26 上 10-8 鄭釐公弑殺が見え、襄十 (563BC) には 26 下 05-8 鄭尉止による子駟殺害が見える。尉止が離れているのは、列の移動がなかったとすれば、【109 子駟】に属することが失念された上で、26 下 01-8 孫蒯・26 下 03-8 邾庶其が挿入されたためである。

110 鄭簡公 26 下 14-5 鄭簡公 (565-530BC) の元年は、25 下 14-5 吳諸樊 (560-548BC)・26 下 11-5 曹武公 (554-528BC) の元年より遡る。列が移動していなかったとすれば、あるいは簡公の「當國」をつとめた 27 下 04-5 鄭子皮のあたりに移動する途中で挿入箇所を誤ったものかもしれない。

111 偃陽攻略 26 上 04-6 叔梁紇・26 上 08-6 秦堇父・26 上 10-6 狄斯彌・26 上 15-4 宋子罕・26 下 03-4 向戌・26 下 13-7 福陽子は、偃陽攻略(『左傳』襄十 563BC)に關わる。

福陽子が離れているのは、列の移動がなかったとすれば、【111 偃陽攻略】に属することを失念した上で、【114 衛獻公出奔】を挿入したためである。

112 吳諸樊 26 上 14-5 吳諸樊 (560-548BC) は 560BC に繋がる。【124 楚康王】に属する 27 上 14-7 吳遏と重出している。

113 士鞅 26 上 12-6 士鞅は、『左傳』襄十四 (559BC)

欒鍼曰、此役也、報櫟之敗也。役又無功、晉之恥也。吾有二位於戎路、敢不恥乎。
與士鞅馳秦師死焉。士鞅反。欒黶謂士鞅曰、余弟不欲往而子召之。余弟死而子來、
是而子殺余之弟也。弗逐、余亦將殺之。士鞅奔秦。

に初見する。

114 衛獻公出奔 26 上 10-5 衛柳壯・26 下 07-5 衛大叔儀・26 下 09-5 公子鱄・26 上
14-6 尹公佗・26 下 01-6 庾公差・26 下 03-6 公孫丁・26 下 05-7 衛殤公・26 下 10-7 孫文子・
26 下 01-8 孫蒯・26 下 09-8 衛甯喜は、26 上 15-7 衛獻公の出奔（『左傳』襄十四 559BC）
に關わる。

衛柳壯が【112 吳諸樊】（560BC）の前にあるのは不適切である。

115 范宣子 26 下 04-4 范宣子・26 下 08-6 姜戎駒支は、『左傳』襄十四（559BC）

十四年春、吳告敗于晉。會于向、爲吳謀楚故也。范宣子數吳之不德也、以退吳人。

執莒公子務婁、以其通楚使也。將執戎子駒支、…

に見える。26 下 05-6 無終子嘉父は、『左傳』襄四（569BC）「無終子嘉父使孟樂如晉、
因魏莊子納虎豹之皮、以請和諸戎」にしか見えないが、姜戎駒支と同じ「戎」という
ことで、ここに置かれたものである。

116 齊晏桓子・楚子囊・鄭師慧 『左傳』襄十四（559BC）に26 下 03-5 楚子囊（公
子貞）の卒が見え、襄十五（558BC）

師慧過宋朝、將私焉。其相曰、朝也。慧曰、無人焉。相曰、朝也、何故無人。慧曰、
必無人焉。若猶有人、豈其以千乘之相易淫樂之矇。必無人焉故也。子罕聞之、固
請而歸之。

に26 下 05-5 鄭師慧が見えるが、26 下 01-5 晏桓子の卒は襄十七（556BC）である。と
もに【114 衛獻公出奔】に屬する26 下 09-5 公子鱄の後に置かれるべきであり、かつ晏
桓子は鄭師慧の後でなければならない。

117 魯臧堅・宋華臣 27 上 04-7 魯臧堅は『左傳』襄十七（556BC）

齊人獲臧堅、齊侯使夙沙衛唁之、且曰無死。堅稽首曰、拜命之辱。抑君賜不終、
姑又使其刑臣禮於士。以杙扶其傷而死。

に見え、27 上 06-7 宋華臣の出奔が同じく襄十七に見える。ともに【120 楚令尹子南】
（551BC）に屬する27 上 02-7 楚屈建の前に置かれるべきである。

118 欒盈出奔 27 上 10-2 晉叔向・27 上 12-2 向母・27 上 07-3 樂王鮒・26 下 07-4 晉邢蒯・26 下 09-4 齊殖綽・26 下 15-4 齊杞梁・27 上 02-4 殖妻・27 上 03-4 華州・27 上 02-5 晉陽畢は、欒盈出奔（『左傳』襄二十一 552BC）～齊伐莒（『左傳』襄二十三 550BC）に關わる。樂王鮒が【120 楚令尹子南】（551BC）に屬する 27 上 10-3 楚申叔豫の前にあることから、552BC に繋がるものとなる。

27 上 10-2 晉叔向・27 上 12-2 向母は、『左傳』襄二十一

秋、欒盈出奔楚。宣子殺箕遺・黃淵・嘉父・司空靖・邴豫・董叔・邴師・申書・羊舌虎・叔黹。囚伯華・叔向・籍偃。…初、叔向之母妒叔虎之母美而不使、其子皆諫其母。其母曰、深山大澤、實生龍蛇。彼美、余懼其生龍蛇以禍女。女敝族也。國多大寵、不仁人間之、不亦難乎。余何愛焉。使往視寢、生叔虎、美而有勇力。欒懷子嬖之、故羊舌氏之族及於難。

に見える。叔向の弟・叔虎は【118 欒盈出奔】には見えない。一方、27 上 08-7 晉叔魚は、同じく叔向の弟だが、『左傳』昭十二（530BC）にようやく初見し、ここに置かれるのはおかしい。叔虎と誤ったものであろう。

119 邾庶其 26 下 03-8 邾庶其は、『左傳』襄二十一（552BC）「邾庶其以漆閭丘來奔」に見える。

120 楚令尹子南 27 上 10-3 楚申叔豫・26 下 13-6 觀起・27 上 02-7 楚屈建は、26 下 10-6 楚令尹子南の誅（『左傳』襄二十二 551BC）に關わる。楚屈建が【117 魯臧堅・宋華臣】（556BC）および【118 欒盈出奔】（552BC）に屬する 28 上 08-7 晉叔魚の前にあるのは不適切である。

121 鄭游販 26 下 11-4 鄭游販は、『左傳』襄二十二（551BC）

十二月、鄭游販將歸晉、未出竟、遭逆妻者、奪之、以館于邑。丁巳、其夫攻子明殺之、以其妻行。

に見える。【118 欒盈出奔】（552BC）に屬する 26 下 09-4 齊殖綽・26 下 15-4 齊杞梁の間にあるのは不適切である。

122 齊嚴公 27 上 13-3 齊大史三人・27 下 01-3 南史氏・27 下 03-3 陳文子・27 上 05-4 祝佗父・27 上 09-4 申蒯・27 上 10-4 陳不占・27 下 01-5 饒蔑・27 上 04-6 齊析歸父・27 上 10-7 齊崔杼・27 上 12-7 慶封・27 上 13-7 慶嗣は、27 下 04-9 齊嚴公の弑殺（『左傳』

襄二十五 548BC) に關わる。

第6列・第7列で【122 齊嚴公】が【124 楚康王】・【125 晉平公】より前にあることや、【125 晉平公】に屬する 27 上 14-5 趙武・28 上 04-5 劉定公の間にあることを考慮すれば、饒蔑の位置には問題がある。饒蔑があとから挿入された際にその位置を誤ったものであろう。

123 鄭公孫夏 27 上 06-6 鄭公孫夏（子西）は、『春秋經』では襄二十五（548BC）「冬、鄭公孫夏帥師伐陳」が終見である。

124 楚康王 27 上 13-5 薳奄は『左傳』襄二十五（548BC）「楚蔣掩爲司馬」に初見し、同じく襄二十五

十二月、吳子諸樊伐楚、以報舟師之役、門于巢。巢牛臣曰、吳王勇而輕、若啟之、將親門。我獲射之、必殪。是君也死、彊其少安。從之。吳子門焉、牛臣隱於短牆以射之、卒。

に、27 上 07-8 巢牛臣が27 上 14-7 吳遏（諸樊）を射殺したことが見える。27 上 10-5 楚湫舉は襄二十六（547BC）

初、楚伍參與蔡太師子朝友、其子伍舉與聲子相善也、伍舉娶於王子牟、王子牟爲申公而亡、楚人曰、伍舉實送之。伍舉奔鄭、將遂奔晉。

に見える。27 上 12-6 楚康王（559-545BC）の在位期間に当たる。27 上 13-8 吳餘祭は諸樊の、27 下 07-9 楚夾敖は康王の後継者である。

125 晉平公 27 下 04-6 晉亥唐・27 下 06-6 秦醫和・27 下 08-6 晉船人固來は、27 下 01-7 晉平公に關わる。27 上 14-5 趙武は、平公のもとで執政に就任する（『左傳』襄二十五 548BC）。【125 晉平公】は 548BC に繋がるものと見てよからう。

28 上 04-5 劉定公は『左傳』昭元（541BC）「天王使劉定公勞趙孟於潁」に趙武との關係が見える。27 下 14-6 舟人清洧は、『太平御覽』卷六百二十四 / 治道部五 / 治世三

尸子曰、范獻子泛於河、大夫皆在。君曰、孰知欒氏之子。大夫莫答。舟人清洧舍楫答曰、君奚問欒氏之子。若修晉國之政、內得大夫、外不失百姓、雖欒氏之子、其若君何。若不修晉國之政、內不得大夫、而外失百姓、則舟中之人、皆欒氏子也。君曰、善。

に見える。范獻子（士鞅）を執政とする記述である。范獻子は魏獻子（魏舒）（『左傳』

定元 509BC 卒) の次に執政に就任しているので、舟人清涓は、晉定公 (511-475BC) の時代に降るが、同じく舟人 (船人) ということで晉船人固來の後に置かれているのであろう。

126 晉秦講和 27 上 06-5 行人子員・27 上 09-5 子朱は、『左傳』襄二十六 (547BC) 「春、秦伯之弟鍼如晉脩成、叔向命召行人子員。行人子朱曰、…」に見える。【122 齊嚴公】 (548BC) に屬する 27 下 01-5 饒蔑の後にあるべきである。

127 宋伊戾 27 上 10-8 宋伊戾は、『左傳』襄二十六 (547BC) 「大子痤美而佞、合左師畏而惡之。寺人惠牆伊戾爲大子內師而無寵」に見える。【124 楚康王】 (548BC) に屬する 27 上 07-8 巢牛臣・27 上 13-8 吳餘祭の間にあるのは不適切である。

128 衛獻公歸國 27 上 13-4 衛右宰穀臣・27 上 15-2 蘧伯玉は、『左傳』襄二十六 (547BC)

初、獻公使與甯喜言、甯喜曰、必子鮮在、不然必敗。故公使子鮮。子鮮不獲命於敬嬖、以公命與甯喜言曰、苟反、政由甯氏、祭則寡人。甯喜告蘧伯玉、伯玉曰、瑗不得聞君之出、敢聞其入。遂行、從近關出。告右宰穀、右宰穀曰、不可。獲罪於兩君、天下誰畜之。

に見える。古今人表が右宰穀を右宰穀臣に作り、直後に 27 下 01-4 厚成子を置くのは、『呂氏春秋』觀表

郕成子爲魯聘於晉、過衛、右宰穀臣止而觴之、陳樂而不樂、酒酣而送之以璧、顧反、過而弗辭、其僕曰、臯者右宰穀臣之觴吾子也甚歡、今侯渫過而弗辭。郕成子曰、夫止而觴我、與我歡也。陳樂而不樂、告我憂也。酒酣而送我以璧、寄之我也。若由是觀之、衛其有亂乎。倍衛三十里、聞甯喜之難作、右宰穀臣死之。還車而臨、三舉而歸。至、使人迎其妻子、隔宅而異之、分祿而食之、其子長而反其璧。孔子聞之曰、夫智可以微謀、仁可以託財者、其郕成子之謂乎。郕成子之觀右宰穀臣也、深矣妙矣、不觀其事而觀其志、可謂能觀人矣。

に據る。

129 季札 27 下 02-4 衛公子荊・27 下 04-2 鄭子產・27 下 04-7 齊陳桓子・27 下 06-2 晏平仲は、『左傳』襄二十九 (544BC) の 27 下 02-2 吳季札の聘の記述に見える。

130 鄭子皮 27 下 04-5 鄭子皮は『左傳』襄二十九 (544BC) 「鄭子展卒、子皮即位」に初見する。【125 晉平公】 (548BC) に屬する 28 上 04-5 劉定公の前ではなく、後に置

くべきである。

131 燕惠公 27 下 12-8 燕惠公 (544-536BC) は、『史記』燕世家

惠公元年、齊高止來奔。六年、惠公多寵姬、公欲去諸大夫而立寵姬宋、大夫共誅姬宋、惠公懼、奔齊。四年、齊高偃如晉、請共伐燕、入其君。晉平公許、與齊伐燕、入惠公。惠公至燕而死。燕立悼公。

に見える。その元年は、27 下 05-8 魯昭公 (541-510BC)・27 下 09-8 晉昭公 (531-526BC) の元年より遡る。王侯表の段階で 27 下 02 景王 (544-520BC) の次にあったものを、齊に出奔した六年 (539BC) もしくは卒年 (536BC) に移動する際に、晉昭公の前に置くべきところ、誤って後に置いたものであろう。

実のところ、『史記』の記述は、『左傳』

燕簡公多嬖寵、欲去諸大夫而立其寵人。冬、燕大夫比以殺公之外嬖。公懼奔齊。書曰、北燕伯款出奔齊、罪之也。(昭三 539BC)

十一月、齊侯如晉、請伐北燕也。士匄相士鞅逆諸河、禮也。晉侯許之。十二月、齊侯遂伐北燕、將納簡公。(昭六 536BC)

七年春王正月、暨齊平、齊求之也。癸巳、齊侯次于號。燕人行成、曰、敝邑知罪、敢不聽命。先君之敝器、請以謝罪。公孫皙曰、受服而退、俟釁而動、可也。二月戊午、盟于濡上。燕人歸燕姬、賂以瑤鬻・玉櫝・玨耳、不克而還。(昭七 535BC)

十二年春、齊高偃納北燕伯款于唐、因其眾也。(昭十二 530BC)

を引用するものだが、『左傳』は『春秋經』昭三の北燕伯款を燕簡公と稱し、さらに『史記』が燕惠公が 536BC に歸國して卒したとするのに對し、『左傳』は北燕伯款の歸國を 530BC とする。『史記』燕世家の系譜に問題があるのである*¹²。古今人表は『史記』に據って燕惠公を列する一方で、【138 北燕伯款】に後述の如く『左傳』に據って北燕伯款をも列している。

132 太子晉 27 下 09-2 太子晉は、『國語』周語下の韋昭注に「晉、靈王太子也、早卒不立」とある。ここでは靈王の次の 27 下 02-8 景王 (544-520BC) の元年に繋けている。

133 絳老人 27 下 04-4 絳老人・27 下 06-4 史趙・27 下 07-4 士文伯は、『左傳』襄三十 (543BC)

*¹² 『史記』の燕系譜に関わる問題については、吉本 1998 を見よ。

二月癸未、晉悼夫人食輿人之城杞者、絳縣人或年長矣、無子而往、與於食。有與疑年、使之年。曰、…師曠曰、…史趙曰、…士文伯曰、…

に見える。

134 蔡景侯 27 下 13-9 蔡靈侯は、27 下 10-9 蔡景侯の弑殺（『左傳』襄三十 543BC）に関わる。

135 鄭の大夫・衛北宮文子 27 下 09-4 鄭卑湛・27 下 13-4 行人子羽・27 下 15-4 馮簡子・28 上 02-4 子大叔・28 上 04-4 衛北宮文子は、『左傳』襄三十一（542BC）

十二月、北宮文子相衛襄公以如楚、宋之盟故也。過鄭、…鄭國將有諸侯之事、子產乃問四國之爲於子羽、且使多爲辭令、與裨諶乘以適野、使謀可否、而告馮簡子使斷之、事成、乃授子大叔使行之、以應對賓客、是以鮮有敗事。北宮文子所謂有禮也。

に見える。

136 鄭の内亂 28 上 07-5 公孫楚・28 上 09-5 公孫黑は、『左傳』昭元（541BC）「鄭徐吾犯之妹美、公孫楚聘之矣、公孫黑又使強委禽焉。犯懼、告子產」に見える。28 上 09-4 狐丘子林は、『呂氏春秋』下賢「子產相鄭、往見壺丘子林、與其弟子坐必以年、是倚其相於門也」に子產が師事した人物として見える。

137 韓宣子 28 上 11-5 韓宣子厥につき、『人表考』は、「韓宣子（厥子）」の原注が破損混入したものとする。韓宣子（韓起）は、『左傳』昭二（540BC）「二年春、晉侯使韓宣子來聘、且告爲政」に初見する。

138 北燕伯款 【131 燕惠公】に上述の如く、27 下 14-7 北燕伯款は、『春秋經』昭三（539BC）「北燕伯款出奔齊」に見える。27 下 06-7 衛襄公（543-535BC）・27 下 10-7 曹平公（527-524BC）の間にありべきである。

139 叔孫豹 28 上 07-4 魯叔孫豹・28 上 09-9 魯豎牛・28 上 13-5 魯叔孫昭子は、『左傳』昭四（538BC）に、豎牛の叔孫豹弑殺、叔孫昭子の豎牛誅殺が見える。叔孫豹は【136 鄭の内亂】（541BC）に属する 28 上 09-4 狐丘子林の後にあるべきである。魯豎牛は、【134 蔡景公】（543BC）に属する 27 下 13-9 蔡靈侯と【145 陳の滅亡】（534BC）に属する 27 下 15-9 陳哀公の間に置くべきものである。

140 宋寺人柳 28 上 07-9 宋寺人柳は『左傳』昭六（536BC）「宋寺人柳有寵、大子

佐惡之」に初見する。28 上 09-9 魯豎牛と同じく 27 下 13-9 蔡靈侯・27 下 15-9 陳哀公の間に置くべきであり、加えて魯豎牛の後になければならない。

141 晉趙景子 28 上 12-4 晉趙景子は、『左傳』昭七（535BC）「及子產適晉、趙景子問焉、曰、…」に見える。

142 魯謝息 28 上 03-6 魯謝息は、『左傳』昭七（535BC）「晉人來治杞田、季孫將以成與之、謝息爲孟孫守、不可、曰、…」に見える。

143 衛史釐・師曠 28 下 06-5 衛史釐は『左傳』昭七（535BC）

衛襄公夫人姜氏無子、嬖人嬀始生孟縶。孔成子夢康叔謂己、立元、余使羈之孫圉與史苟相之。史朝亦夢康叔謂己、…

に一見するだけである。28 下 09-5 師曠は 535BC 以降では『左傳』昭八（534BC）に一見するだけで、これが『左傳』における終見である。従って、ここで衛史釐・師曠は 535BC・534BC に繋がられていることになる。【149 楚靈王】（529BC）に屬する 28 下 03-5 吳厥由の後にあるのは不適切である。

144 仲尼 第2列：27 下 12-2 左丘明～28 上 08-2 仲弓、第3列：27 下 05-3 卞嚴子～29 上 14-3 顔刻、第4列：28 上 14-4 孟釐子～29 上 14-4 琴牢、第6列：28 下 08-6 子鉏商～29 上 02-6 老成子は、27 下 09-1 仲尼の関係者である。

これらのうち、28 上 14-4 孟釐子・28 下 02-4 孟懿子・28 下 04-4 南宮敬叔は、『左傳』昭七（535BC）

孟僖子病不能相禮、乃講學之、苟能禮者從之。及其將死也、召其大夫、曰、禮、人之幹也。無禮無以立。吾聞將有達者、曰孔丘、聖人之後也。…故孟懿子與南宮敬叔師事仲尼。

に見え、さらにこれが『左傳』における孔子の初見である。535BC に繋がられているものと見てよからう。

なお、27 下 07-3 臧文中につき、『人表考』は、

臧文仲始見左莊十一。…案文仲歷莊・閔・僖・文四君、卒于文十年。表次昭公時、反在其子宣叔之後、何失次懸遠如是。又不列武仲、必傳寫之誤。繹史曰、此宜武仲、而前遺文仲、然均不應居第三。

と、臧武仲の誤としている。実のところ、臧武仲および 27 下 05-3 卞嚴子は、『論語』

憲問

子路問成人。子曰、若臧武仲之知、公綽之不欲、卞莊子之勇、冉求之藝、文之以禮樂、亦可以爲成人矣。曰、今之成人者何必然。見利思義、見危授命、久要不忘平生之言、亦可以爲成人矣。

に見え、そのため、仲尼の関係者としてここに置かれているものと思われる。卞莊子の次に置かれていることから、臧文仲は臧武仲の誤であると見てよいが、単に「失次懸遠」を以て主張されるべきではない。

145 陳の滅亡 27 下 15-8 陳公子招・27 下 15-9 陳哀公・28 上 03-7 陳惠公は、陳の滅亡（『左傳』昭八 534BC）に関わる。

146 周儋桓伯 28 上 03-8 周儋桓伯は、『左傳』昭九（533BC）「周甘人與晉閻嘉爭閻田。晉梁丙・張趯率陰戎伐潁。王使儋桓伯辭於晉、曰、…」に見える。

147 吳餘昧 28 上 03-9 吳餘昧について、『史記』十二諸侯年表／吳表は餘祭十七年（547-531BC）・餘昧四年（530-527BC）とするが、『春秋經』襄二十五（548BC）「吳子遏伐楚、門于巢、卒」・襄二十九（544BC）「閻弑吳子餘祭」・昭十五（527BC）「吳子夷末卒」に據れば、餘祭四年（547-544BC）・餘昧十七年（543-527BC）となり、十二諸侯年表は、餘祭・餘昧の年數を轉倒している。【145 陳の滅亡】（534BC）に屬する 27 下 15-9 陳哀公と【149 楚靈王】（529BC）に屬する 28 上 10-9 楚靈王の間にあるので、『史記』の餘昧元年（530BC）に繋げることになる。

148 魯南蒯 28 上 04-8 魯南蒯は、『左傳』昭十二（530BC）「季平子立而不禮於南蒯」に初見する。

149 楚靈王 28 下 01-5 楚薳罷・28 下 03-5 吳厥由・28 上 11-6 薳啟疆・28 上 13-6 申子亶・28 上 15-6 左史倚相・28 下 02-6 申亡宇・28 下 04-6 申亥・28 下 01-9 楚公子比・28 下 04-9 觀從は、28 上 10-9 楚靈王（540-529BC）に関わる。楚靈王が弑殺された昭十三（529BC）に繋がる。

150 燕悼公 28 上 08-6 燕悼公（535-529BC）の元年は 28 上 05-6 鄭定公（529-514BC）の元年より遡る。誤って燕共公（528-524BC）の在位年代を用いたものかもしれない。

151 莒子庚與 28 上 06-8 莒子庚與は『左傳』昭十四（528BC）「秋八月、莒著丘公卒、郊公不感、國人弗順、欲立著丘公之弟庚與」に初見する。

152 晉邢侯 28 上 12-9 晉邢侯・28 上 14-9 雍子は、『左傳』昭十四（528BC）「晉邢侯與雍子爭鄙田」に見える。【149 楚靈王】（529BC）に屬する 28 上 10-9 楚靈王・28 下 01-9 楚公子比の間にあるのは不適切である。

153 曹平公 27 下 10-7 曹平公（527-524BC）の元年は、【138 北燕伯款】（539BC）および 28 上 03-7 陳惠公（533-506BC）の元年より降る。先代の 26 下 11-5 曹武公が第 5 列にあることを踏まえれば、列が移動している可能性がある。

154 鄭孔張 28 上 06-7 鄭孔張は、『左傳』昭十六（526BC）「二月、晉韓起聘于鄭、鄭伯享之。子產戒曰、苟有位於朝、無有不共恪。孔張後至」に見える。

155 荀吳 28 下 12-5 屠蒯・29 上 01-5 荀吳は、『左傳』昭十七（525BC）

晉侯使屠蒯如周、請有事於雒與三塗。…九月丁卯、晉荀吳帥師涉自棘津、使祭史先用牲于雒。陸渾人弗知、師從之。庚午、遂滅陸渾。

に見える。また 28 下 14-5 子服惠伯は、『左傳』昭十三（529BC）「季孫猶在晉、子服惠伯私於中行穆子、曰、…」において荀吳（中行穆子）とともに見え、そのためここに置かれたものであろう。

156 周原伯魯 28 上 08-7 周原伯魯は、『左傳』昭十八（524BC）「秋、葬曹平公、往者見周原伯魯焉、與之語、不說學」に見える。

157 燕共公・燕平公 29 上 15-7 燕共公（528-524BC）・29 下 11-7 燕平公（523-505BC）は、假に 524BC に繋がるにしても【156 周原伯魯】（524BC）に屬する 28 上 08-7 周原伯魯と【162 齊景公】（522BC）に屬する 28 下 13-7 齊景公の間になければならない。列の移動がなかったとすれば、【162 齊景公】（522BC）・【163 太子建】（522BC）の挿入箇所が不適切だったということになる。

158 宋衛陳鄭災 29 上 03-5 裨竈・29 上 05-5 里析・29 上 07-5 梓慎・29 上 09-5 申須は、宋衛陳蔡の災（『左傳』昭十八 524BC）の記述に見える。

159 許男 29 上 08-7 許男は、『春秋經』昭十九（523BC）「夏五月戊辰、許世子止弑其君買。…冬、葬許悼公」の許悼公であろう。【162 齊景公】（522BC）より年代的に遡るので、ここに置かれるのは不適當である。弑殺の対象でもあり、當初、第 8 列にあったものかもしれない。

160 宋元公 28 上 11-8 宋元公（531-517BC）は、28 上 08-8 晉頃公（525-517BC）と【161

蔡平侯】(522BC) の間に置かれているので、華氏の亂勃發(『左傳』昭二十 522BC) の年次に繋げられているものとなる。

161 蔡平侯 28 上 14-8 蔡平侯 (530-522BC)・28 下 10-8 蔡悼侯 (521-519BC) は、522BC の蔡平侯卒年に繋がる。蔡悼侯が離れているのは、【164 王子朝の亂】を誤って挿入したためである。『左傳』

平王即位、既封陳蔡、而皆復之、禮也。隱大子之子廬歸于蔡、禮也。(昭十三 529BC)

三月、葬蔡平公。蔡大子朱失位、位在卑。大夫送葬者、歸見昭子。昭子問蔡故、以告。昭子歎曰、蔡其亡乎。若不亡、是君也必不終。詩曰、不解于位、民之攸墜。今蔡侯始即位、而適卑、身將從之。…蔡侯朱出奔楚。費無極取貨於東國、而謂蔡人曰、朱不用命於楚、君王將立東國。若不先從王欲、楚必圍蔡。蔡人懼、出朱而立東國。朱愬于楚、楚子將討蔡。無極曰、平侯與楚有盟、故封。其子有二心、故廢之。靈王殺隱大子、其子與君同惡、德君必甚、又使立之、不亦可乎。且廢置在君、蔡無他矣。(昭二十一 521BC)

には、平侯卒の翌年の公位繼承紛争が見える。『左傳』は、景侯廬・悼侯東國をとともに昭十一 (531BC) に楚靈王に殺害された隱太子の子とする。對するに、『史記』蔡世家楚滅蔡三歲、楚公子棄疾弑其君靈王代立、爲平王。平王乃求蔡景侯少子廬、立之、是爲平侯。…平侯九年 (522BC) 卒、靈侯般之孫東國攻平侯子而自立、是爲悼侯。悼侯父曰隱太子友。隱太子友者、靈侯之太子、平侯立而殺隱太子、故平侯卒而隱太子之子東國攻平侯子而代立、是爲悼侯。悼侯三年 (519BC) 卒、弟昭侯申立。

は、紛争を 522BC に繋げ、景侯が兄の隱太子を殺害したと、『左傳』とは異なった理解を示す。さらに十二諸侯年表「蔡悼侯東國元年 (521BC) 奔楚」は、『春秋經』昭二十一 (521BC) 「冬、蔡侯朱出奔楚」に據るものと一應は理解できるが、その一方で、『春秋經』昭二十三 (519BC) には「夏六月、蔡侯東國卒于楚」と、悼侯が楚で卒したことが見える。無傳之經であるので、悼侯卒の経緯はわからないが、『史記』はあるいは十二諸侯年表の段階では蔡世家と異なり、悼侯がその元年に楚に出奔し、そのまま楚にあって三年に卒したと理解していたのかもしれない。

162 齊景公 29 上 11-5 林既・29 上 13-5 北郭騷・29 上 15-5 逢於何・29 下 02-5 司馬

穰苴・29 上 04-6 齊虞人・29 上 06-6 越石父・29 上 08-6 栢常騫・29 上 10-6 燕子于・29 上 06-7 裔款・28 下 13-8 梁丘據は、28 下 13-7 齊景公に關わる。梁丘據・裔款は、『左傳』昭二十（522BC）「齊侯疥、遂店、期而不瘳。諸侯之賓問疾者多在。梁丘據與裔款言於公曰、…」に、齊虞人は、同じく昭二十「十二月、齊侯田于沛、招虞人以弓、不進。公使執之。辭曰、…」に見える。【162 齊景公】は、522BC に繋がるものと見てよい。もっとも、梁丘據の前に【164 王子朝の亂】（520BC）に屬する 28 下 02-8 樊頃子～28 下 07-8 賁猛および 28 下 10-8 蔡悼侯（521-519BC）があることは、まずは梁丘據、ついで樊頃子～賁猛の挿入位置が重ねて誤られたことを示す。

163 太子建 29 下 07-5 楚伍奢・29 下 09-5 伍尚は、29 下 07-8 楚太子建の亡命（『左傳』昭二十 522BC）に關わる。

164 王子朝の亂 28 下 06-6 晉籍談・28 下 02-8 樊頃子・28 下 04-8 司徒醜・28 下 06-8 子鼂・28 下 07-8 賁猛・29 上 03-8 南宮極・28 下 08-9 周悼王・29 上 03-9 敬王は、王子朝の亂（『左傳』昭二十二 520BC）に關わる。【162 齊景公】で上述したように、樊頃子～賁猛は挿入箇所を誤っている。

165 雞父の戰 29 上 05-8 頓子・29 上 07-8 胡子髡・29 上 09-8 沈子逞・29 上 11-8 陳夏齧は、雞父の戰（『左傳』昭二十三 519BC）に關わる。

166 曹悼公 28 下 15-8 曹悼公（523-515BC）はその卒年 515BC に繋がる。『史記』曹世家

九年（515BC）、悼公朝于宋、宋囚之。曹立其弟野、是爲聲公。悼公死於宋、歸葬。に關わる。王侯表の段階で 28 下 10-8 蔡悼侯の前にあったものを【165 雞父の戰】（519BC）の後に移すべきところ、誤って前に移したものである。

167 魯昭公亡命 29 下 12-5 魯師已・30 上 01-5 子家羈・29 上 13-8 魯季平子・29 下 03-8 季公烏・29 下 05-8 公叔務人・29 下 08-8 寺人僚祖・29 下 12-8 臧昭伯・29 下 14-8 厚昭伯は、魯昭公亡命（『左傳』昭二十五 517BC）に關わる。

168 宋樂大心 29 上 15-8 宋樂大心は、『春秋經』昭二十五（517BC）

夏、叔詣會晉趙鞅・宋樂大心・衛北宮喜・鄭游吉・曹人・邾人・滕人・薛人・小邾人于黃父。

に見える。【167 魯昭公亡命】（517BC）に屬する 29 上 13-8 魯季平子・29 下 03-8 季公

鳥の間にあるのは不適切である。挿入箇所を誤ったか、列が移動したかであろう。

169 楚平王 30 上 07-8 楚郢宛・29 上 13-9 費亡極は、29 上 09-9 楚平王 (528-516BC) に關わる。【164 王子朝の亂】(522BC) と 29 上 15-9 曹聲公 (514-510BC) の間にあるので、楚平王卒年 516BC に繋がることになる。楚郢宛が離れているのは、【173 吳王闔廬・楚昭王】(514BC) に屬する 30 上 04-8 吳王闔廬の挿入位置を誤ったためである。

170 宋景公 30 上 15-7 宋景公 (516-453BC) の元年は、30 上 11-7 鄭獻公 (513-501BC) の元年より遡る。『左傳』哀二十六 (469BC) にその卒後の公位繼承紛争が見えることを踏まえれば、王侯表の段階では 30 上 04-8 吳王闔廬 (514-496BC) の前に置かれていた可能性がある。

171 吳王僚 29 下 15-7 專諸は、29 下 04-9 吳僚の弑殺 (『左傳』昭二十七 515BC) に關わる。吳僚は【174 曹聲公・曹隱公】(510BC) に屬する 29 上 15-9 曹聲公の前にあるべきところ誤って後に置かれている。

172 魏獻子 29 上 13-6 魏獻子・29 下 01-6 司馬彌牟・29 下 04-6 司馬箴・29 下 06-6 魏戊・29 下 08-6 智徐吾・29 下 10-6 孟丙・29 下 12-6 成鱣・29 下 15-6 閻沒・30 上 02-6 汝寬は、『左傳』昭二十八 (514BC)

秋、晉韓宣子卒、魏獻子爲政、分祁氏之田以爲七縣、分羊舌氏之田以爲三縣。司馬彌牟爲鄆大夫、賈辛爲祁大夫、司馬烏爲平陵大夫、魏戊爲梗陽大夫、知徐吾爲塗水大夫、韓固爲馬首大夫、孟丙爲孟大夫、樂霄爲銅鞮大夫、趙朝爲平陽大夫、僚安爲楊氏大夫。…魏子謂成鱣、…冬、梗陽人有獄、魏戊不能斷、以獄上。其大宗賂以女樂、魏子將受之。魏戊謂閻沒・女寬曰、…

に見える。

173 吳王闔廬・楚昭王 30 上 03-4 楚子西・30 上 05-4 公子闔・30 上 07-4 五子胥・30 上 09-4 江上丈人・31 上 03-4 觀射父・30 上 04-5 吳孫武・30 上 06-5 申包胥・30 上 09-5 蔡墨・30 上 11-5 楚史皇・30 上 13-5 王孫由于・30 下 01-5 鱸金・30 下 03-5 屠羊說・30 下 07-5 莫敖大心・30 下 09-5 蒙穀・30 下 11-5 陳逢滑・30 上 04-6 楚司馬子期・30 上 07-6 沈尹戊・30 上 15-6 員公辛・30 下 04-6 王孫章・30 下 06-6 楚石奢・30 上 02-7 秦哀公・30 上 08-7 鍾建・30 上 09-8 越王允常・30 上 12-8 鬬且・30 下 09-8 楚囊瓦・30 下 12-8 唐成公・30 下 15-8 蔡昭侯・30 上 02-9 吳夫槩・30 上 06-9 徐子章禹は、30 上 04-8 吳王闔

廬（514-496BC）および30上05-7 楚昭王に關わる。楚入郢（『左傳』定四 506BC）に關わる人物がほとんどだが、【175 城成周】（509BC）の前にあるので、闔廬元年（514BC）に繋がるものとなる。31上03-4 觀射父が離れているのは、【177 衛靈公】・【179 季氏】が誤って挿入されたためであろう。

174 曹聲公・曹隱公 29上15-9 曹聲公・29下08-9 曹隱公は、『史記』曹世家「聲公五年（510BC）、平公弟通弑聲公代立、是爲隱公」に關わる。

175 城成周 30上09-6 衛彪僂・30上13-6 萇弘・30下04-7 宋中幾・30下07-7 齊高張は、城成周（『左傳』定元 509BC）に關わる。30上09-6 衛彪僂・30上13-6 萇弘は、【173 吳王闔廬・楚昭王】（514BC）に屬する30上07-6 沈尹戌・30上15-6 員公辛の間に誤って挿入されている。

176 邾嚴公 30下06-8 夷射姑は、30下04-8 邾嚴公の卒（『左傳』定三 507BC）に關わる。【173 吳王闔廬・楚昭王】（514BC）に屬する30下09-8 楚囊瓦の前に誤って挿入されている。

177 衛靈公 30上12-4 史魚・30上14-4 公叔文子・30下02-4 中叔圉・30下04-4 祝佗・30下07-4 王孫賈・30下13-4 衛公子伋・30下13-5 司馬狗・31上02-5 顔雋由・31上04-5 大夫選・30上12-9 南子・30上14-9 蒯聵・30下02-9 宋朝・30下04-9 彌子瑕・30下06-9 雍渠は、30上09-9 衛靈公に關わる。

第9列では【179 季氏】（505BC）に屬する30下13-9 季桓子の前にある。『左傳』定四（506BC）に、衛の封建に關わる祝佗の長文の言論が見え、この年次に繋けられているものと思われる。

178 召陵の會 30下08-6 劉文公卷・31上02-8 晉定公・31上06-8 陳懷公・31上11-8 許男・31上12-8 莒郊公・31下03-8 頓子・31下05-8 胡子・31下07-8 薛襄公・31下10-8 小邾子は、『春秋經』定四（506BC）

三月、公會劉子・晉侯・宋公・蔡侯・衛侯・陳子・鄭伯・許男・曹伯・莒子・邾子・頓子・胡子・滕子・薛伯・杞伯・小邾子・齊國夏于召陵、侵楚。

の召陵の會に見える。

31上09-8 滕悼公は、『春秋經』昭二十八（514BC）「秋七月癸巳、滕子寧卒。冬、葬滕悼公」に、また31上15-8 邾悼公は、『春秋經』昭元（541BC）「六月丁巳、邾子華卒。

…葬邾悼公」にその卒が見える。あるいは召陵の會に参加した「滕子」「邾子」を滕悼公・邾悼公に誤認したものかと思われる。

179 季氏 30 下 09-4 公父文伯母・30 下 13-6 季康子・31 上 01-6 公父文伯・31 上 05-6 東野畢・30 下 10-7 榮駕鵝・30 下 13-9 季桓子は、季平子・季桓子・季康子に關わる。

季桓子が【177 衛靈公】(506BC)と31 上 04-9 曹靖公(505-502BC)の間にある。『左傳』定五(505BC)に、季平子が卒し、季桓子が立ったことが見え、この年次に繋がるものとなる。

30 下 09-4 公父文伯母は、列の移動がなかったとすれば、【177 衛靈公】に屬する30 下 07-4 王孫賈・30 下 13-4 衛公子遄の間に誤って挿入されている。

180 燕簡公 31 下 08-6 燕簡公(504-493BC)は、【179 季氏】(505BC)に屬する31 上 05-6 東野畢の後にあるべきである。【183 趙簡子】(497BC)に屬する31 上 14-6 周舍・31 下 01-6 田果・31 下 03-6 行人燭過の挿入位置を誤ったものである。

181 秦悼公 32 上 02-6 秦悼公(490-477BC)の元年は、32 上 06-6 燕獻公(492-465BC)の元年より降る。誤って先代の秦惠公(500-491BC)の在位年代を用いた可能性がある。

182 孔子出奔 31 上 06-5 陳司城貞子・31 上 09-5 顔濁鄒は、『史記』孔子世家

定公十四年(496BC)、孔子年五十六、由大司寇行攝相事、有喜色。…孔子遂行、宿乎屯。…孔子遂適衛、主於子路妻兄顔濁鄒家。…孔子遂至陳、主於司城貞子家。歲餘、吳王夫差伐陳、取三邑而去。趙鞅伐朝歌。楚圍蔡、蔡遷于吳。吳敗越王句踐會稽。

に見える。孔子出奔を孔子世家は496BCとするが、十二諸侯年表は魯定公十二年(498BC)に繋げる。【183 趙簡子】(497BC)の前に置かれており、十二諸侯年表に従って498BCに繋けている。

183 趙簡子 31 下 03-4 鳴犢・31 下 05-4 竇犢・31 上 13-5 郵亡卹・31 上 15-5 王良・31 下 02-5 栢樂・31 下 04-5 陽城胥渠・31 下 07-5 扁鵲・31 下 09-5 董安于・31 上 14-6 周舍・31 下 01-6 田果・31 下 03-6 行人燭過・31 上 12-9 范吉射・31 下 01-9 中行寅は、31 上 14-7 趙簡子に關わる。第4列が【185 越王句踐】(496BC)の前に、第5列が【182 孔子出奔】(498BC)の後にあるので、范中行の亂(『左傳』定十三497BC)の開始年次に繋がるものとなる。

184 韓悼子 31 下 03-7 韓悼子は原注に「宣子子」とある。古今人表の下文に 34 上 10-5 韓康子（貞子子）・34 下 07-5 韓武子（康子子）があることから、『人表考』は悼子を貞子の誤とする。『史記』韓世家

宣子卒、子貞子代立。貞子徙居平陽。貞子卒、子簡子代。簡子卒、子莊子代。莊子卒、子康子代。

は、宣子・貞子・簡子・莊子・康子を列し、貞子は『左傳』昭二（540BC）「夏四月、韓須如齊逆女。（杜注「須、韓起子」）」の韓須に当たる（『史記索隱』韓世家「系本作平子、名須、宣子子也。」）。さらに韓世家「晉定公十五年（497BC）、宣子與趙簡子侵伐范・中行氏」は、范中行之亂に韓宣子が關與したとするが、『左傳』昭二十八（514BC）「秋、晉韓宣子卒」・定十三（497BC）「冬十一月、荀躒・韓不信・魏曼多奉公以伐范氏・中行氏」によれば、韓宣子は 514BC にすでに卒しており、范中行之亂に關與したのは、韓不信（韓簡子）である。（『左傳』昭三十二 510BC「冬十一月、晉魏舒・韓不信如京師、合諸侯之大夫于狄泉、尋盟、且令城成周。…韓簡子臨之、以爲成命」より韓不信の諡が簡子であることが確認される）。韓世家の年代觀には問題があるが、一方、古今人表も、簡子・莊子の二代が脱落しており、このことは、『史記集解』韓世家「徐廣曰、史記多無簡子・莊子、而云貞子生康子。班氏亦同」にすでに指摘されている。『史記』の多くのテキストが簡子・莊子を缺いていたというものであり、古今人表はこのようなテキストの『史記』に據った上で、韓宣子が范中行之亂に關與したのち卒し、貞子ついで康子が立ったとしているのである。

185 越王句踐 31 下 13-3 范蠡・31 下 11-4 大夫種・31 下 13-4 后膚・32 上 01-4 諸稽到・32 上 04-4 苦成・32 上 06-4 皐如・32 上 09-4 計然・31 下 12-6 嚴先生は、31 下 07-3 越句踐に關わる。句踐は、『左傳』定十四（496BC）「吳伐越、越子句踐禦之、…」に初見する。

186 蔡成公 32 下 09-7 蔡成公（490-472BC）の元年は、32 上 03-7 齊晏孺子（489BC）・32 上 10-7 楚惠王（488-432BC）の元年より遡る。前後の 30 下 15-8 蔡昭侯・34 上 03-8 蔡聲侯がともに第 8 列に屬することを考慮すれば、王侯表の段階では、32 下 01-8 衛出公（492-481BC）の次にあった可能性がある。

187 杞隱公・杞釐公 31 下 04-9 杞隱公・31 下 07-9 杞釐公は、『史記』杞世家

悼公十二年（506BC）卒、子隱公乞立。七月、隱公弟遂弑隱公自立、是爲釐公。

釐公十九年（487BC）卒、

の釐公の卒年たる 487BC に繋がる。

188 曹の滅亡 31 下 10-9 曹伯陽・31 下 13-9 公孫疆は、曹の滅亡（『左傳』哀八 487BC）に関わる。

189 陳轅頗 32 下 07-7 陳轅頗は、『左傳』哀十一（484BC）「夏、陳轅頗出奔鄭」に見える。【193 衛の内亂】（477BC）に属する 32 下 04-7 太叔疾の後にあるのは不適切である。

190 齊の内亂 32 上 08-5 隰斯彌・32 上 14-5 大陸子方・31 上 07-7 齊國夏・31 上 10-7 桑掩胥・32 上 03-7 齊晏孺子・32 上 07-7 高昭子・31 下 14-8 齊悼公・32 上 05-8 鮑牧・32 上 08-8 田恆・32 上 11-8 諸御鞅・32 上 04-9 田乞・32 上 07-9 齊簡公・32 上 11-9 子我・32 上 13-9 子行は、齊簡公弑殺（『左傳』哀十四 481BC）に至る齊の内亂に関わる。

齊國夏・桑掩胥は、31 下 14-7 魯哀公（494-468BC）の後に置くべきところ、誤って前に置いたものである。

32 上 07-7 高昭子は、【175 城成周】に属する 30 下 07-7 齊高張の重出である。

191 白公勝の亂 32 上 09-3 葉公子高・32 上 04-5 楚芊尹文・32 上 10-5 市南熊宜僚・32 下 02-5 嚴善・32 上 13-7 屈固・32 上 10-7 楚惠王・32 上 14-7 申鳴は、32 上 10-6 楚白公勝の亂（『左傳』哀十六 479BC）に関わる。

楚芊尹文・市南熊宜僚は【190 齊の内亂】に属する 32 上 14-5 大陸子方の後に置くべきところ、挿入箇所を誤っている。

192 陳の滅亡 33 下 01-9 陳愍公は、陳の滅亡（『左傳』哀十七 478BC）に関わる。【193 衛の内亂】（477BC）に属する 33 下 05-9 衛侯起の前に位置すべきである。

193 衛の内亂 32 下 01-7 孔文子・32 下 04-7 太叔疾・32 上 13-8 衛太叔遺・32 下 01-8 衛出公・32 下 04-8 渾良夫・32 下 08-8 孔悝・32 下 09-8 石乞・32 下 10-8 狐驪・32 下 12-8 衛簡公・33 上 05-9 衛侯起・33 上 07-9 石圃は、衛の内亂に関わる。【191 白公勝の亂】（478BC）の後に置かれているので、衛出公復位（『左傳』哀十八 477BC）の年次に繋がるものとなる。

194 吳の滅亡 33 下 12-9 吳王夫差・34 上 01-9 太宰嚭は、吳の滅亡（『左傳』哀

二十二 473BC)に關わる。

195 杞愍公・杞哀公 33 下 09-8 杞愍公・33 下 12-8 杞哀公は、『史記』杞世家

釐公十九年(487BC)卒、子湣公維立。…十六年(471BC)、湣公弟闕路弑湣公代立、是爲哀公。

の愍公弑殺(471BC)に關わる。

196 論語・檀弓 第2列: 32 下 10-2 朱張・32 下 13-2 少連、第3列: 32 下 08-3 達巷黨人～34 上 03-3 子服子、第4列: 32 下 06-4 儀封人～33 下 11-4 史留^{*13}、第5列: 31 下 11-5 田饒～31 下 15-5 榮啟期・32 下 04-5 魯太師～33 上 14-5 師冕・33 下 03-5 南郭惠子～33 下 14-5 吳行人儀、第6列: 32 下 03-6 檀弓～33 下 03-6 陳尊己、第7列: 32 下 15-7 厥黨童子・33 上 04-7 革子成・33 下 01-7 公之魚～33 下 08-7 匡人、第8列: 33 上 01-8 原壤～33 下 04-8 公山不狃、第9列: 33 上 08-9 陽虎は、【144 仲尼】に屬する以外の『論語』・『禮記』檀弓などに登場する人物、あるいは孔子に關係する人物、魯哀公時代の魯人、その他諸子に類する人々などである^{*14}。

32 下 09-5 陳亢・33 上 06-5 陳子禽・33 上 15-6 陳子亢は重出である。

34 上 03-3 子服子につき、『人表考』は、

案孟獻子生子服它、它生椒、椒生回、回生何。表獨缺回一代、則此子服子必子服回。惟列于哀公時、在子服何之後、或傳寫失次也。回諡昭伯、始見左昭十六・廿三。晏子春秋雜上作子叔昭伯。

と、子服昭伯が「傳寫失次」の結果ここに置かれたものとするが、【196 論語・檀弓】に屬することを考慮すれば、『禮記』檀弓上

公儀仲子之喪、檀弓免焉。仲子舍其孫而立其子。檀弓曰、何居。我未之前聞也。趨而就子服伯子於門右、曰、仲子舍其孫而立其子、何也。伯子曰、仲子亦猶行古之道也。昔者文王舍伯邑考而立武王、微子舍其孫腓而立衍也。夫仲子亦猶行古之道也。子游問諸孔子、孔子曰、否。立孫。

の「子服伯子」である可能性を主張しうる。鄭玄は「子服伯子、蓋仲孫蔑之玄孫子服

^{*13} 福田 2013 は、上博簡『史記問於夫子』(馬承源主編 2012)の「史記」を古今人表の史留に、「夫子」を孔子に比定する。

^{*14} 34 上 05 より後になるが、34 上 07-3 惠子・34 上 10-3 公房皮も【196 論語・檀弓】に屬する。

景伯」とするが、その場合、32 下 12-5 子服景伯の重出となろう。

197 趙襄子 33 下 12-4 豫讓・33 下 13-4 青荊子・34 上 05-4 知過・34 上 01-5 鄭鄴魁紇・34 上 01-6 晉懿公・34 上 02-7 晉哀公・34 上 05-7 智伯は、34 上 02-4 趙襄子に關わる。智伯の滅びた 453BC に繋かる^{*15}。

四

以上、本稿では古今人表・春秋部分における人物の排列を分析した。この作業を踏まえてさらに定量的に検討する作業は別稿に委ねるが、古今人表・春秋部分の登場人物は、『史記』に比較して圧倒的に多い。たとえば【008 魯隱公】に屬する展亡駭・臧釐伯・邾儀父・公子翬・宰咺はいずれも『左傳』に見えるが、これらのうち、『史記』に見えるのは公子翬だけである。古今人表は確かに人名を並べただけの一覽表に過ぎないが、その背景には『史記』より遙かに豊富な史實が潜在している。春秋部分についてその豊富さを支えているのが『左傳』であったことがまずは了解されよう。

周知の如く、古今人表は古來評判が悪い。その最大の理由は、劉知幾『史通』内篇 / 表曆

又有甚於斯者。異哉、班氏之人表也。區別九品、網羅千載、論世則異時、語姓則他族、自可方以類聚、物以群分、使善惡相從、先後爲次、何藉而爲表乎。且其書上自庖犧、下窮嬴氏、不言漢事、而編入漢書。鳩居鵲巢、蔦施松上、附生疣贅、不知翦截、何斷而爲限乎。

に見えるように、上古～秦を扱う古今人表が斷代史たる『漢書』に編入されているという一見不可解な事實である。『漢書』敘傳

固以爲唐虞三代、詩書所及、世有典籍、故雖堯舜之盛、必有典謨之篇、然後揚名於後世、冠德於百王、故曰、巍巍乎其有成功、煥乎其有文章也。漢紹堯運、以建帝業、至於六世、史臣乃追述功德、私作本紀、編於百王之末、廁於秦・項之列。太初以後、闕而不錄、故探纂前記、綴輯所聞、以述漢書、起元高祖、終於孝平王

^{*15} 34 上 05 より後になるが、34 上 07-5 魏桓子・34 上 10-5 韓康子・34 上 13-5 高赫・34 上 15-5 原過・34 下 02-5 任章も【197 趙襄子】に屬する。

莽之誅、十有二世、二百三十年、綜其行事、旁貫五經、上下洽通、爲春秋考紀・表・志・傳、凡百篇。

は、『漢書』編纂の第一の動機が『史記』の超克にあったことを示す*16。まずは『史記』が高祖～武帝の本紀を、五帝～項羽本紀に並列したことを批判し、前漢一代に限って本紀を立てる。その結果、『漢書』は、斷代史の濫觴と目されるようになった*17。しかし、班固の批判はこれのみにとどまらない。司馬遷傳論贊に次のようにある。

贊曰、自古書契之作而有史官、其載籍博矣。至孔氏纂之、上（繼）〔斷〕唐堯、下訖秦繆。唐虞以前雖有遺文、其語不經、故言黃帝・顓頊之事未可明也。及孔子因魯史記而作春秋、而左丘明論輯其本事以爲之傳、又纂異同爲國語。又有世本、錄黃帝以來至春秋時帝王公侯卿大夫祖世所出。春秋之後、七國竝爭、秦兼諸侯、有戰國策。漢興伐秦定天下、有楚漢春秋。故司馬遷據左氏・國語、采世本・戰國策、述楚漢春秋、接其後事、訖于（大）〔天〕漢。其言秦漢、詳矣。至於采經摭傳、分散數家之事、甚多疏略、或有抵牾。亦其涉獵者廣博、貫穿經傳、馳騁古今、上下數千載間、斯以勤矣。又其是非頗繆於聖人、論大道則先黃老而後六經、序遊俠則退處士而進姦雄、述貨殖則崇勢利而羞賤貧、此其所蔽也。然自劉向・揚雄博極群書、皆稱遷有良史之材、服其善序事理、辨而不華、質而不俚、其文直、其事核、不虛美、不隱惡、故謂之實錄。烏呼、以遷之博物洽聞、而不能以知自全、既陷極刑、幽而發憤、書亦信矣。跡其所以自傷悼、小雅巷伯之倫。夫唯大雅既明且哲、能保其身、難矣哉。

下線部に示されたように、『史記』における先行諸文献の引用が「疎略」で「抵牾」があること、『史記』の価値観が「聖人」のそれに悖っていることが批判されている。この議論は父・班彪のそれを踏まえたものである。

遷之所記、從漢元至武以絕、則其功也。至於採經摭傳、分散百家之事、甚多疏略、不如其本、務欲以多聞廣載爲功、論議淺而不篤。其論術學、則崇黃老而薄五經、序貨殖、則輕仁義而羞貧窮、道游俠、則賤守節而貴俗功。此其大蔽傷道、所以遇極刑之咎也。（『後漢書』班彪傳）

*16 『漢書』に對する『史記』の影響については、丁毅華 1987 を参照。

*17 『漢書』を「斷代史」とすることの後代性については、劉詠聰 1988 を参照。

古今人表は實のところ、『史記』のこの二つの「缺陷」を解決した先秦史記述の試みであったと考える。上古～秦の人物を九等に排列したのは、「聖人」の価値観に基づくものにほかならないが、今一つの『史記』の「疎略」はいかに克服されるのか。班彪が「甚多疏略、不如其本」というように、リライトされたものは所詮は原資料に及ばず疎略の誹りを免れ得ない。古今人表は確かに人名を並べただけの一覧表に過ぎないが、たとえば【008 魯隱公】に屬する展亡駭・臧釐伯・邾儀父・公子翬・宰咺が一群をなして表示されていた場合、『左傳』に親しむほどのものであれば、ただちに関連する記述を想起するであろう。古今人表は、直接的な記述による「疎略」を回避しつつ歴史認識を傳達する一つの仕組みであったと思われる。

このような仕組みが可能になるには、前漢末年以降の古典學の展開、それに伴う教養の共有が不可欠であろう。『左傳』についていえば、班固と賈逵との交友がただちに想起される。賈逵（扶風平陵人、30-101）は、班固（扶風安陵人、32-91）と同年輩、籍貫も隣縣で殆ど同郷、「與班固竝校祕書、應對左右」（『後漢書』賈逵傳）と、校書郎として同僚であり、建初四年（79）の白虎觀會議にもともに參加した。

尤明左氏傳・國語、爲之解詁五十一篇、永平中（58-75）、上疏獻之、顯宗重其書、寫藏祕館。（同）

とあるように、賈逵は『左傳』『國語』について包括的な解詁を完成した。賈逵の左傳學が古今人表・春秋部分のあり方に決定的に影響したことは容易に想像される。

注釋學の成立は、一定數の讀者の存在が前提となろう。ここに表象される古典的教養の浸透こそが、古今人表という歴史「記述」を成り立たしめた背景であったと考える。古今人表は、上古～秦の歴史を暗喩的に「記述」することで、『史記』の超克を試みたものに他ならない。

圖版注

①上杉本（『漢書（國寶慶元本）』、朋友書店、1977）に據り補う。

②人表考「案通志氏族略三引風俗通・路史後紀十引盟會圖及廣韻注言周宣王支子食采謝丘、其後爲氏。人表魯有謝丘章。而徧檢書傳、未見章名、鄭・羅二氏但引人表爲說也。

言是魯人、亦不知所據」。

③人表考「未詳」。

④上杉本に據り補う。

⑤ 19 上 15-4 王子成父と重出。

⑥百衲本は 21 上 04-4 に「召伯」、21 上 05-5 に「廖」。上杉本は 21 上 04-4 に「召伯」が無く、21 上 05-5 を「召伯廖」に作る。

⑦百衲本「臣猛足」。人表考「臣乃晉字之譌」。

⑧人表考「依繹史本、各本無羈字」。

⑨百衲本は「宋襄公（成公子）」に作るが、人表考「依繹史本、各本譌倒」が指摘するように「宋成公（襄公子）」の誤りである。

⑩ 21 下 15-8 「曹共公」と重出。

⑪百衲本「朱文公」。上杉本「邾文公」。

⑫百衲本「鄭子良」。人表考「疑此乃楚子良之誤」。

⑬百衲本「士良子」。上杉本「王貞子」。

⑭ 24 上 15-7 「衛繆公」と重出。

⑮百衲本「公子」。上杉本「公子歸生」。

⑯百衲本「魯公子歸生」。人表考「案此必魯公孫歸父之誤也」。

⑰百衲本「荀尹」。人表考「案此是荀庚、轉寫字脫其半耳」。

⑱百衲本「鄭公子弃疾」。人表考「案去亦作弄、與弃字形近音鄰、義竝得通、故遂以去爲弃」。

⑲百衲本「衛子良夫」。上杉本「衛孫良夫」。

⑳百衲本「向于」。上杉本「向子」。

㉑百衲本「鄭廖」。人表考「案鄭乃鄧之譌」。

㉒百衲本「程鄭」。人表考「鄭字疑誤、當是弑晉厲公之程滑也」。

㉓百衲本「朱庶其」。人表考「案朱當作邾」。

㉔百衲本「晉陽罕」。人表考「案罕乃畢字之譌」。

㉕百衲本「魯國歸父」。人表考「案繹史本無魯字、而國爲析之譌」。

㉖ 26 上 12-6 「士鞅」と重出。

- ②⑦百衲本「晉趙文子」。人表考「前已書趙武、故繹史以此爲重出、然非也。表不列文子之子、則文當作景」。
- ②⑧百衲本「曹桓公」。人表考「依繹史本、各本譌悼爲桓」。
- ②⑨百衲本「孝成子」。人表考「老成子」。
- ③⑩百衲本「起平王」。上杉本作「楚平王」。
- ③⑪百衲本「宋昭公」。人表考「此蓋重出」。
- ③⑫百衲本「許幼」。人表考「依繹史本、各本作許幼」。
- ③⑬百衲本「薛襄子」。人表考「依繹史本、各本譌襄子」。
- ③⑭百衲本「石國」。人表考「依繹史賁、各本譌國」。
- ③⑮百衲本「師己」。人表考「師乙」。
- ③⑯人表考「案、孟子有宋戴不勝·戴盈之、疏謂不勝字盈之、故此稱爲勝之。鄭乃宋之誤、戴爲宋大族、鄭無戴氏也。惟表列魯哀公時、太先」。
- ③⑰人表考「未詳」。
- ③⑱百衲本「杞釐公」。人表考「案釐字誤、繹史謂當作哀公、是也」。
- ③⑲百衲本「晉定公」。人表考「當云晉懿公」。

引用文獻

(日文)

福田哲之 2013 「『史記』小考：『史記問於夫子』の史記と『漢書』古今人表の史記」、『中國研究集刊』57、116-125 頁。

吉本道雅 1998 「史記戰國紀年考」、『立命館文學』556、1-76 頁。

—— 2007 「『左傳』と西周史」、『中国古代史論叢』4、1-40 頁。吉本 2016 第六章。

—— 2016 『出土文獻に基づく左傳學の再構築』、科研費報告書。

—— 2017 「周室東遷再考」、『京都大學文學部研究紀要』56、1-58 頁。

(中文)

陳嘉禮 2009 「《漢書·古今人表》考論」、國學網 2009.03.02

崔向東 1990 「《漢書·古今人表》淺議」、『錦州師院學報(哲學社會科學版)』1990-2、48-53 頁

丁毅華 1987 「《漢書·古今人表》識要」、『華中師範大學學報(哲學社會科學版)』1987-5、54-60 頁

郭錫良 1986 『漢字古音手冊』、北京大學出版社。

劉詠聰 1988 「《漢書》斷代爲史說獻疑一以《古今人表》之撰作爲例」、『文獻』1988-1、78-85 頁。

馬承源主編 2012 『上海博物館藏戰國楚竹書』9、上海古籍出版社。

王記錄 1996 「《漢書·古今人表》撰述旨趣新探」、『山西師大學報(社會科學版)』23-2、67-71 頁。

王利器·王貞珉 1988 『漢書古今人表疏證』、齊魯書社。

王緒福 2012 「《漢書·古今人表》研究—以西周以來所列人物爲例」、山東大學碩士學位論文。

- 翁聖峯 1998 「《漢書・古今人表》試論」、『國文學報』13、177-212 頁。
吳樹平・王佚之・汪玉可點校 1982 『史記漢書諸表訂補十種』、中華書局。
朱輝峰 2011 「《漢書》古今人表人物觀解析」、湖北大學碩士學位論文。

『漢書』古今人表と春秋史

	上上	上中	上下	中上	中中	中下	下上	下中	下下
17上 01						楚若敖 790-764			内中 掘子
03									越 禹 啟
06					秦襄公 777-766				
08							魯惠公 768-723		
09									師氏 誥
10					文子				
11						晉文侯 780-746			
12							秦文公 765-716		申侯
13					辛有	趙叔帶			
14									
15									
17下 01						宋武公 765-748	楚厲敷 763-758		
02									
03							鄭武公 770-744		
04									
05						衛懿公 757-735			平王 770-720
06									
07						陳文公 754-745		晉昭侯 745-739	曹繆公 759-757
08								潘父	
09		宋正考父①				宋宣公 747-729	燕鄭侯 764-729	曹桓公 756-702	曲沃桓叔 745-731
10									
11						楚盜冒 757-741	蔡共侯 761-760	蔡獻侯 759-750	
13									
14						齊宣公 730-698	齊宣公 730-698	蔡宣侯 749-715	晉孝侯 739-724
18上 01					宋大谷	燕穆侯 728-711			曲沃獻伯 730-716
02						宋繆公 728-720			
04							陳桓公 744-707		
05						蔡桓侯 714-695			
06									魯隱公 722-712
07							展亡駘		公子翬
08					臧釐伯	紂纘父		鄭釐公 743-701	
09									
11						頤考叔			衛桓公 734-719
12					石碚		宋司徒皇父	叔段	
13								晉鄭侯 723-718	公子州吁
14						鄭公子呂			
15							司空牛父	宰咺	芮伯
18下 01						曹釐公 701-671			
02							公子穀生		
03					楚武王 740-690				
04									
05									
06									
07					臧衰伯		影班	宋穆公 719-710	魯桓公 711-694
08			宋孔父			秦憲公 715-704	桓王 719-697	華督	夫人文姜
09									
10									
11						魯施父		蔡哀侯 694-675	影生
12			衛太子伋				衛宣公 718-700	晉哀侯 717-710	陳厲公 706-700
13			公子壽						
14									
15									
19上 02					鬬伯比	宋釐公 710-692	厲公	晉小子侯 709-706	
03						燕宣公 710-698	厲叔		
04					熊率且比				
05						韓丁父	楚昭丘	秦出公 703-698	
07				隨季良		賁章	閔少師		

[illegible]

[illegible]

[illegible]

『漢書』古今人表と春秋史

06					叔梁紇	叔山舟	鄭成公 584-571	辛料	宋魚石	
08					宋華元	匡句須				
10					孟獻子		燕武公 573-555		慶克	
11					樂正求	鞠國			國佐	
12						晉解狐				
13							鄧廖 ⁽²⁾			
14					牧中	郭生	楊王			
15					晉悼公 572-558	韓亡忌	子服佗			
26 下 01										
02						銅鞮伯華				
03										
04					鄭唐				楚公子申	
05					楚工尹襄					
06										
07					郭葵	魯匠慶			魯襄公 572-542	公子壬夫
08					牛吾職		秦直父			
09					魏絳	衛柳壯	狄昕彌			
10					張老					
11					荀偃		士缺			
12					荀偃					
13					荀偃					
14					荀偃					
15					宋子罕	吳諸樊 560-548	尹公佗		子嗣	釋滑 ⁽²⁾
26 下 01										
03					向戌	齊晏桓子	庚公差		孫嗣	
04					范宣子	楚子囊	公孫丁		和庶其 ⁽²⁾	
05										
06										
07					晉邢蒯	鄭師慧	無終子嘉父		鄭尉止	
08						衛大叔權	姜武駒支			
09										
10					齊殖綽	公子驪			衛懿喜	
11					鄭游販	曹武公 554-528	楚令尹子南		孫文子	
12							觀起			
13						鄭簡公 565-530			福陽子	
14										
15					齊杞梁		燕文公 554-549			
27 上 01										
02					魯季文子	邾婁				
03					范武子	邾州	曹陽暉 ⁽²⁾		楚屈建	
04									魯威堅	
05										
06						祝佗父	齊析父父 ⁽²⁾			
07					樂王蜎	行人子員	鄭公孫夏		宋華臣	
08										
09									巢牛臣	
10					申嗣	子朱	燕懿公 548-545			
11					陳不占	楚拔舉				
12					士缺 ⁽²⁾		楚康王 559-545		宋伊辰	
13					衛石穀穀臣	趙奢			吳餘榮 547-531	
14						趙武	吳遏 560-548			
15					蘧伯玉					
27 下 01					南史氏	陳成子	晉平公 557-532		景王 544-520	
02					吳季札	衛公子蒯				
03										
04					陳文子	鄭子皮	齊陳桓子		魯昭公 541-510	齊懿公 553-548
05					卞臧子	絳老人				
06						史欒	秦醫和			
07					晏平仲	王文伯				楚夾敖 544-541
08										
09					臧文仲				晉昭公 531-526	
10	仲尼				太子晉		曹平公 527-524			蔡景侯 591-543

[illegible]

13	楚子西	子家驥	閻沒		厚昭伯	
14			汝寬			
15						
30上 01						
02	楚子西	吳孫武	楚司馬子期		吳王闔廬 514-496	吳去榮
03	公子闔	申包胥	沈尹戌			
04						
05	五子胥					
06						
07						
08	江上丈人	蔡墨	衛彪侯			
09		楚史皇	黃弘			
11	史魚	王孫由于				
12						
13	公叔文子					
14						
30下 01						
02	中叔圍	歸金	員公辛			
03						
04	楊佗	屠羊說				
06						
07	王孫賈	莫敖大心				
08						
09	公父文伯母	蒙殺	劉文公卷			
10						
11						
12						
13	衛公子遄	司馬狗	李康子			
14						
15						
31上 01						
02		顏闔由	公父文伯			
03	韋射父					
04						
05						
06						
07		陳司城貞子	東野畢			
09		顏闔邪				
11						
12						
13						
14						
31下 01						
02	鳴犢	王良	周舍			
03			田果			
04	寶嬰	陽城胥渠	行人燭過			
05	越句踐	扁鵲				
07						
08						
09		董安子				
10						
11	大夫種	田順				
12						
13	范蠡	仇紀	嚴先生			
14						
15						
32上 01						
02						

[illegible]